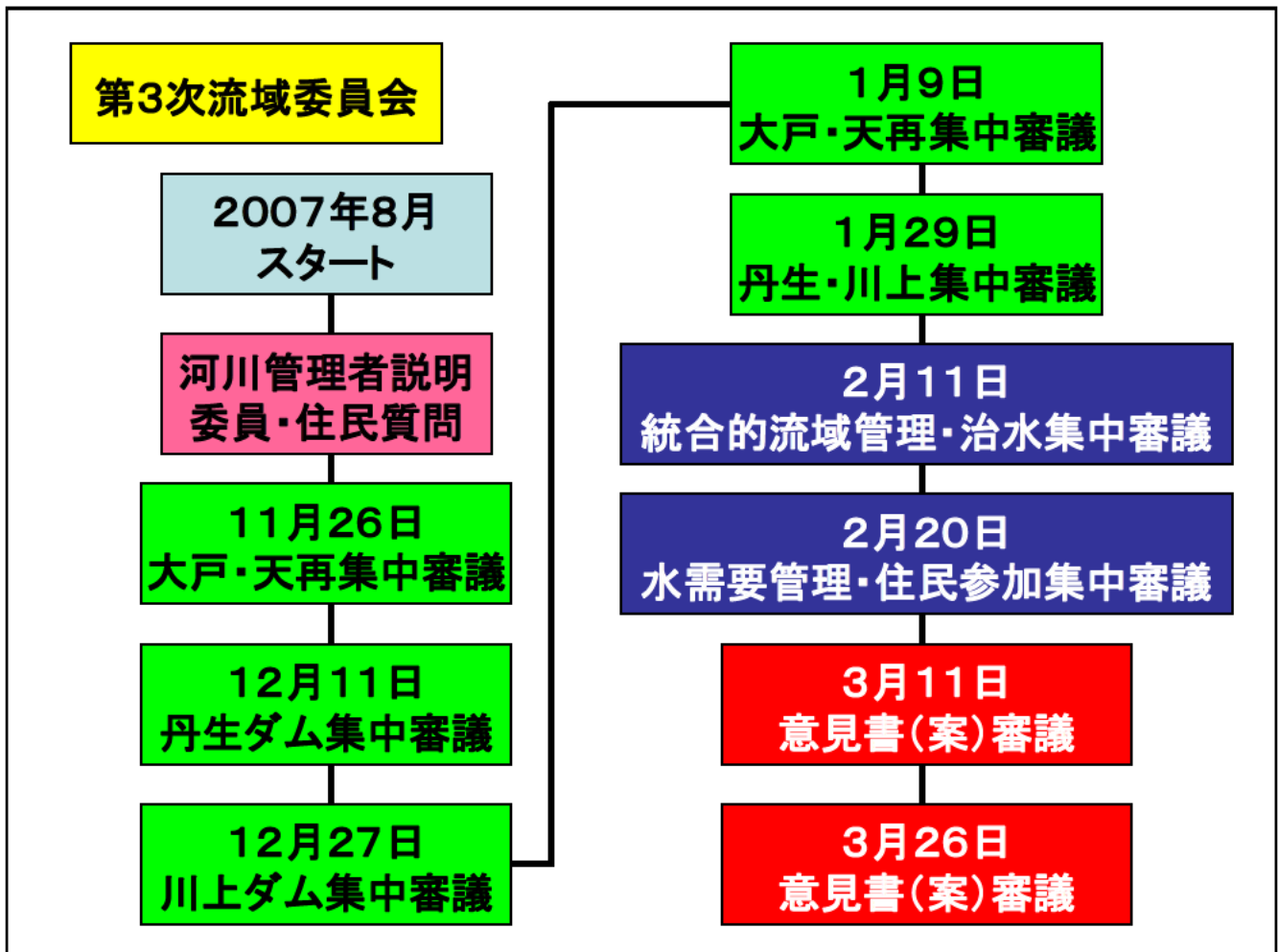


# 前委員説明4月6日



## 「原案」

- 人と川との繋がり
- 河川環境
- 治水・防災
- 利水
- 利用
- 維持管理
- 関連施策

## 意見書(案)

- 審議不十分
- 今後の審議を円滑かつ有意義に行い、より良い計画の策定に資するため、現時点での意見
- 「原案」の見直し、再提示

## 意見書(案)

### 3月26日委員会

- 治水・利水と、河川環境の関係
- 洪水対策と堤防強化

### 4月9日委員会

- 水資源開発と水需要管理
- 4ダム

## 1. 治水・利水「優先」 河川環境「配慮」的発想

これまでの社会活動  
河川整備・利用  
淀川水系に与えてきた影響  
真摯に受け止める

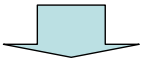


河川整備・管理の  
取り組み転換



自然環境の保全と再生、治水・利水・利用  
総合的判断に基づく河川整備

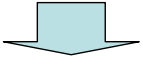
戦後最大洪水  
流下させる



桂川河道  
掘削



環境への影響検討



計画規模洪水  
淀川水位  
HWLUP



ダム建設



住民の生命を  
守る

琵琶湖・淀川の  
保全・再生

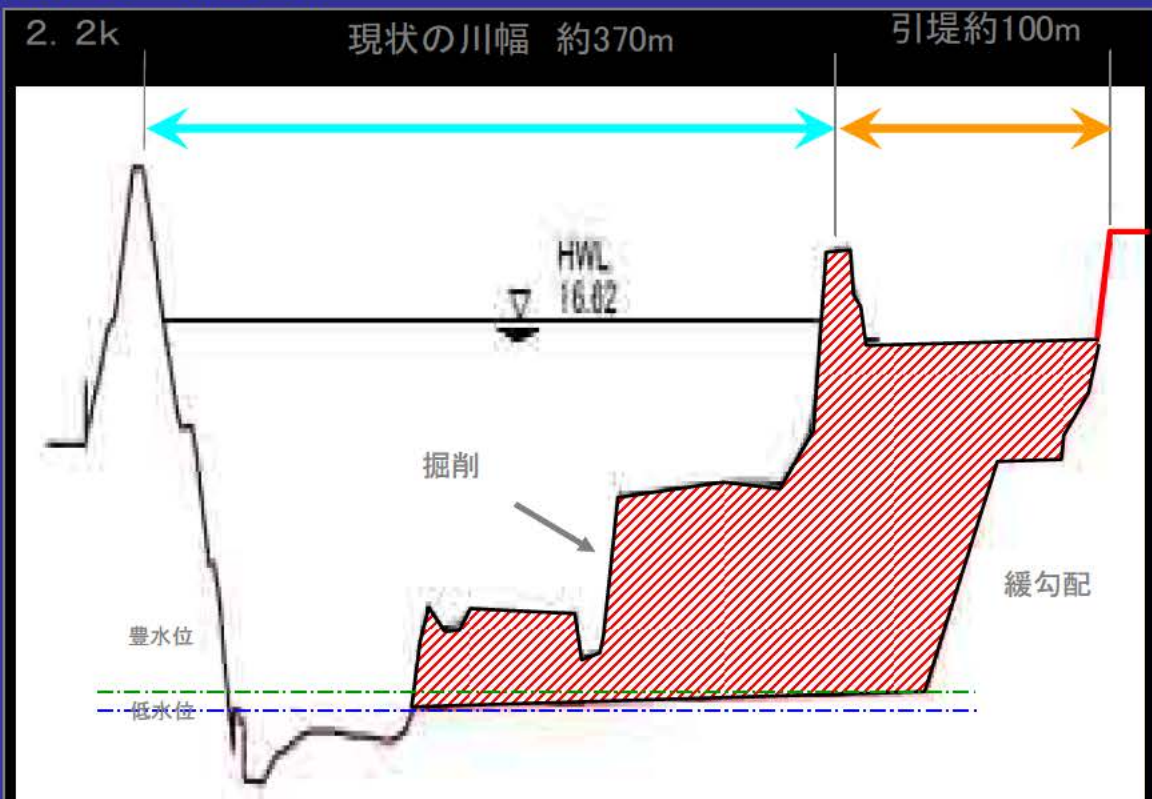
戦後最大洪水  
流下させる

桂川河道  
掘削

ダム建設

旧堤防撤去  
河川環境変化を踏まえた段階的掘削  
枚方～3川合流部掘削  
(水位低下、川の連続性修復)  
HWL以上、耐越水堤防強化  
流域対策

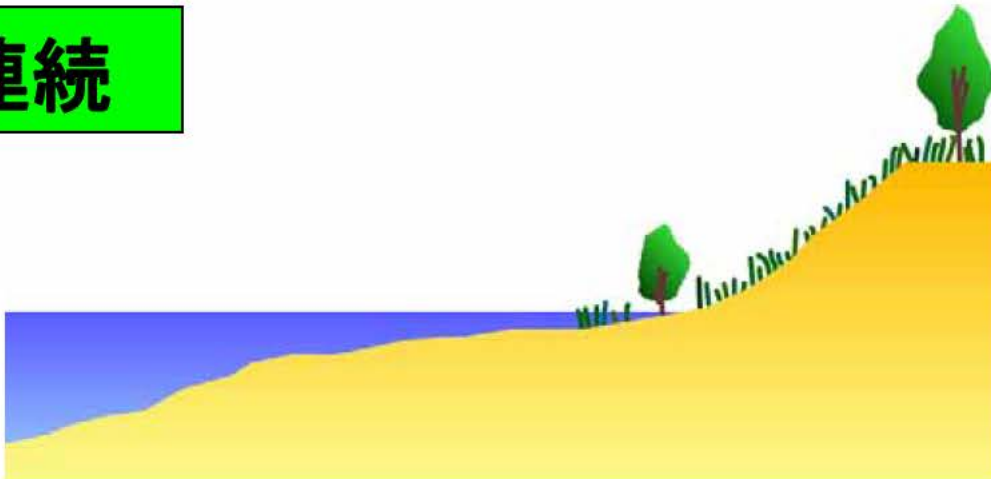
## 大下津地区(桂川)



分断



連続



### 横断方向の連続性の改善

鵜殿地区



断面図

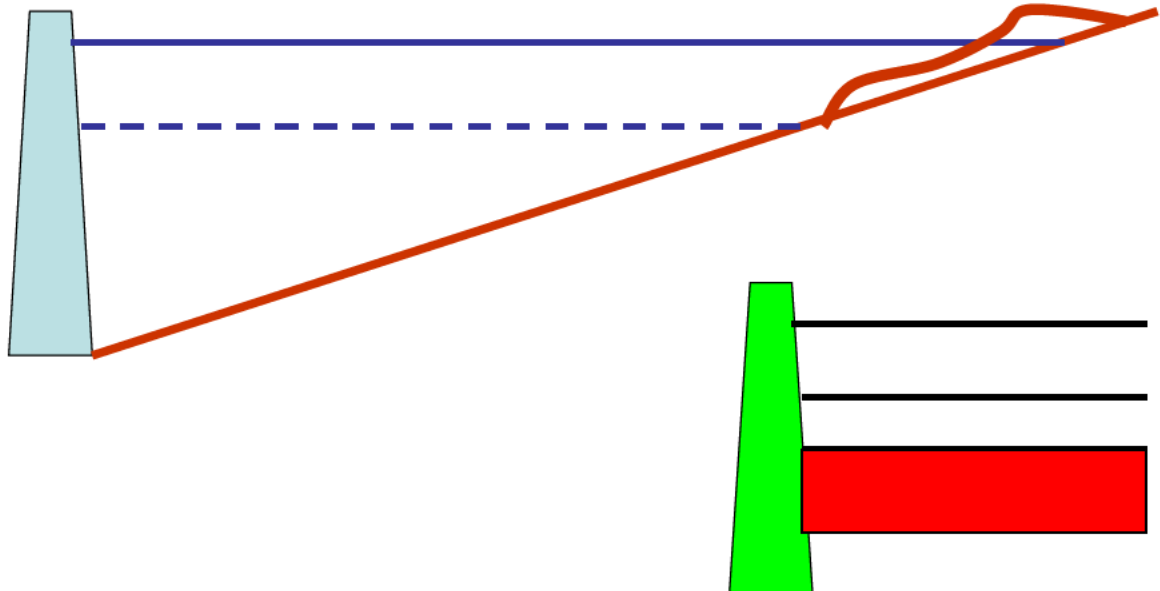
戦後最大洪水  
流下させる

自然環境の保全と再生  
治水、利水、空間利用  
総合的判断？

桂川  
掘削

計画規模洪水  
淀川水位  
HWLUP

ダム建設



### 3-3 環境へのマイナスの影響を「ゼロ」として分析？

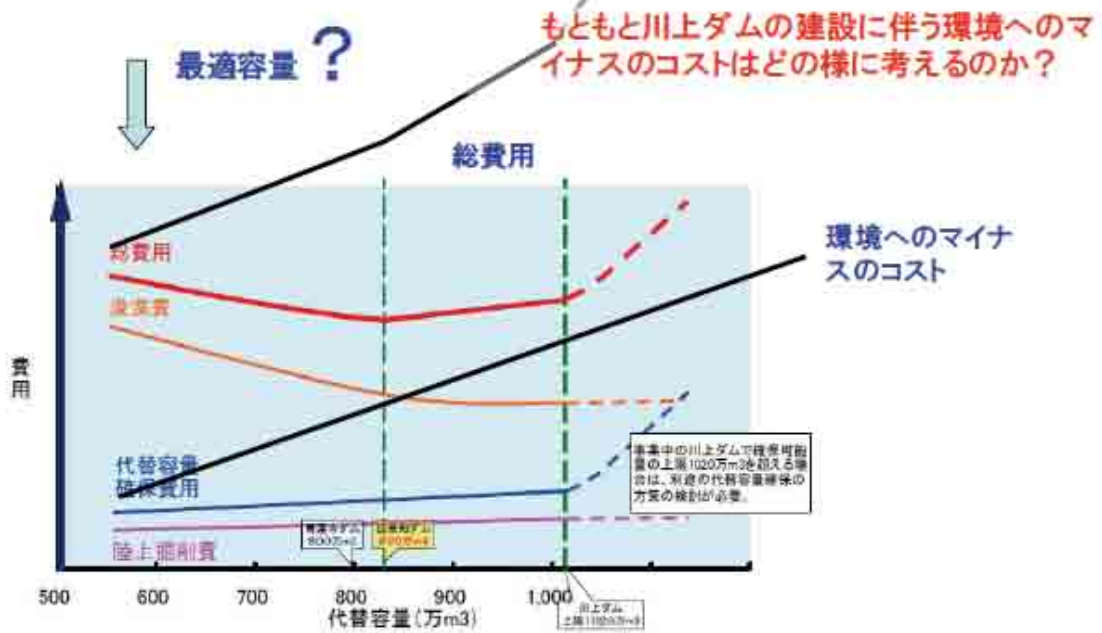


図 5.4.2 代替容量と5ダムの堆砂除去費用の関係

河川における  
人為的改変や自然的擾乱による  
環境の応答が科学的に  
十分解明されていない  
影響予測が不確実

事業手法検討のための  
必要な過去のデータ不足  
環境影響回避・低減のための  
計画・設計の知見蓄積不十分  
技術的に確立していない面あり



表 7.2.6 (4) 保全対策の概要

区分	植物の重要な種	環境影響	環境保全対策の方針	環境保全対策	期待される効果、留意点
移植	オニイノデ ウメバチソウ ヤマジノツツナミ ソウ キキョウ ササユリ ミズギボウシ エビネ サギソウ	直接改変による個体の消失	消失する個体の移植による生育個体の保全	○直接改変の影響を受ける個体の移植 ・生育個体の確認地点における調査結果等に基づく生育適地の選定、種毎の生態等を踏まえた適期での移植(移植先の環境の改変に配慮し、1箇所にも多くの個体を移植しない。)	移植により個体の保全を図るものであり、その効果が期待できるが、移植が非常に難しい種があることから、専門家の指導、助言により実施する。また、移植が非常に難しいと考えられる種について、専門家の指導、助言により播種を実施する。 これらの環境保全対策の実施により、川上ダム建設事業を実施した場合に影響を受ける生育確認個体について、影響は回避、低減されると考えられる。
播種	ヤマジノツツナミ ソウ ツツナミソウ キキョウ ササユリ		移植が難しい種について、生育確認個体からの種子の採取、播種による個体の保全	○播種 ・生育個体の確認地点における調査結果に基づく生育適地の選定、種毎の生態等を踏まえた適期での播種	
モニタリング	オニイノデ ウメバチソウ ミズギボウシ ホトトギス コシンジュガヤ エビネ カキラン オニノヤガラ サギソウ	直接改変以外による個体の消失の懸念	個体の枯死等の継続的な監視	○直接改変以外の影響を受ける個体についての影響の有無の監視 ・生育個体に損傷や枯死等の川上ダム建設事業による影響が確認された場合の移植等の環境保全対策の検討および実施、 林縁植物の生育環境の攪乱の防止	影響が生じる可能性がある個体を継続的に監視するものであり、影響が生じた場合には、その発見が早くなる等の効果が考えられる。 この環境保全対策の実施により、川上ダム建設事業を実施した場合に影響を受ける可能性のある生育確認個体について、影響は回避、低減されると考えられる。

71回委員会  
資料2-5  
川上ダム建設事業について

環境保全対策	期待される効果、留意点
○直接改変の影響を受ける個体の移植 ・生育個体の確認地点における調査結果等に基づく生育適地の選定、種毎の生態等を踏まえた適期での移植(移植先の環境の改変に配慮し、1箇所にも多くの個体を移植しない。)	移植により個体の保全を図るものであり、その効果が期待できるが、移植が非常に難しい種があることから、専門家の指導、助言により実施する。また、移植が非常に難しいと考えられる種について、専門家の指導、助言により播種を実施する。 これらの環境保全対策の実施により、川上ダム建設事業を実施した場合に影響を受ける生育確認個体について、影響は回避、低減されると考えられる。
○播種	

- 「原案」は「河川環境は、治水、利水対策を実施するにあたっての配慮事項」にすぎないという従来型発想から一歩も出ていない。
- かけがえのない琵琶湖・淀川水系の環境の保全と再生のために、これまでの河川整備が与えてきた河川環境変影響を真摯に受け止め、治水・利水の考え方を根本的に転換するという「姿勢」で「原案」を見直すことを求める。

## 1. 河川環境

- 大きな見解、相違なし
- 表題表現、和らげるべき
- 「ダメ、ダメ」と言わずに、「・・・にして欲しい」等、前向きな表現を。

## 2. 堤防決壊から住民の生命を 守れない洪水対策

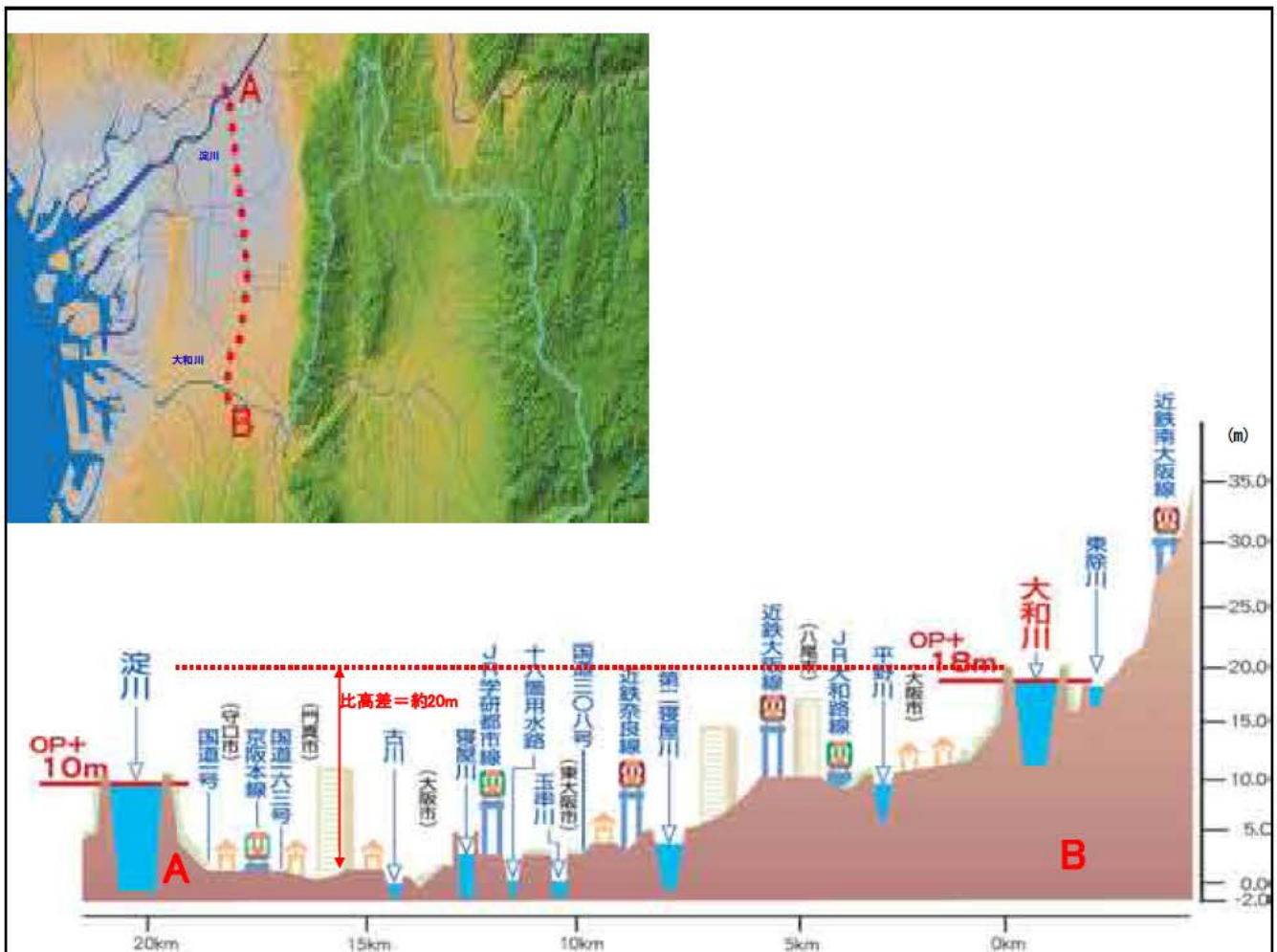
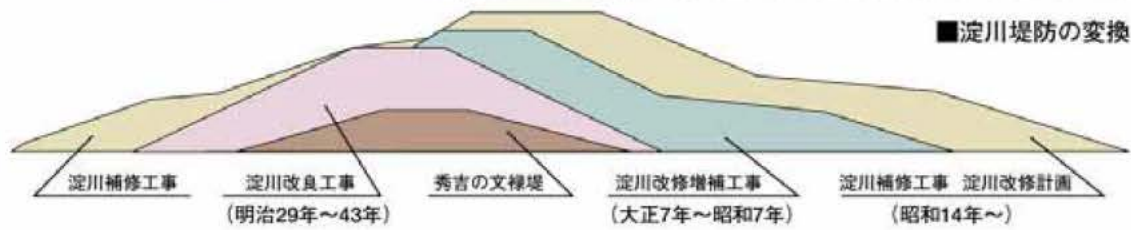


【淀川本川堤防(守口)】

# 堤防断面



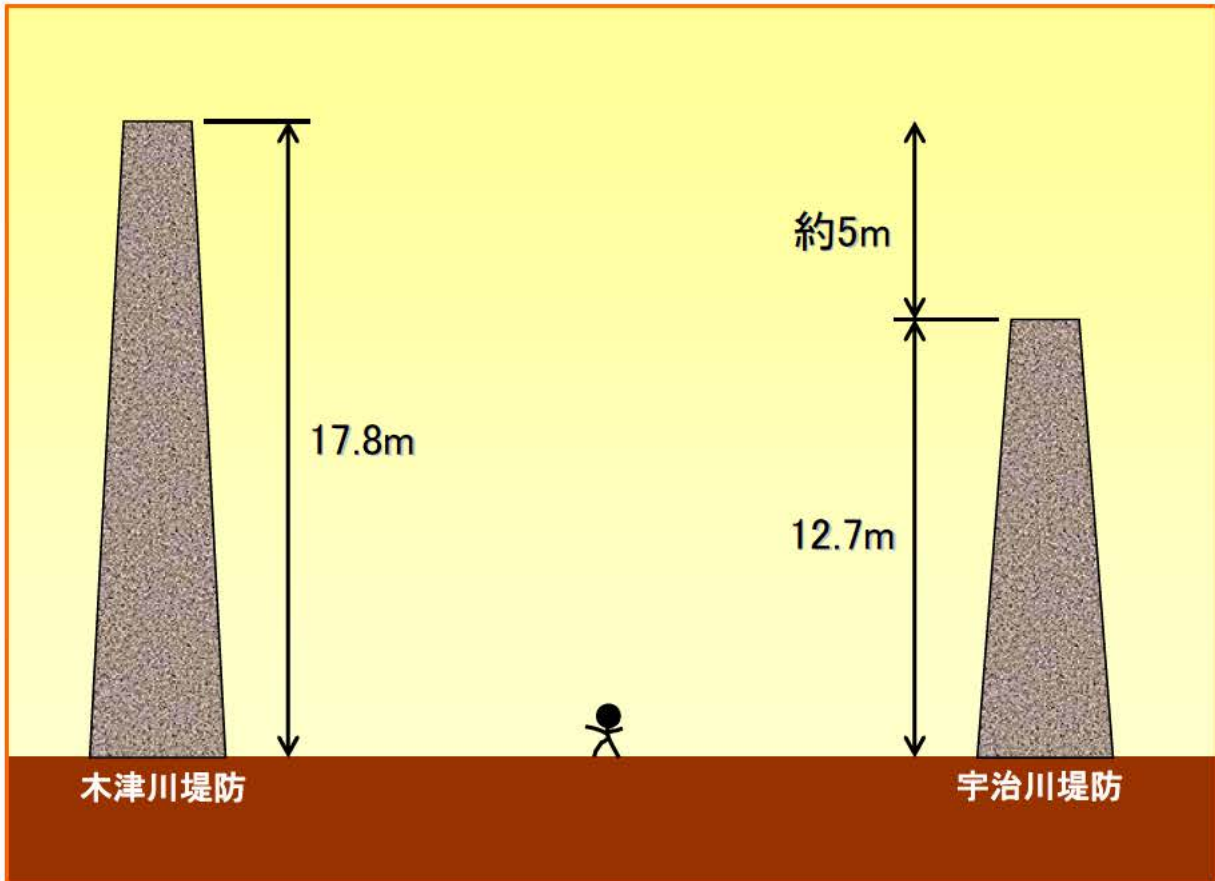
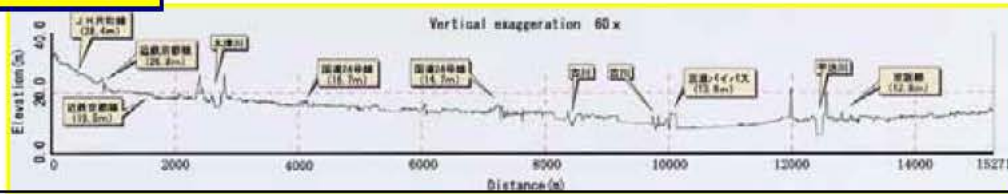
工事で開削された堤防断面。土砂だけで積み上げられていたのがよくわかる



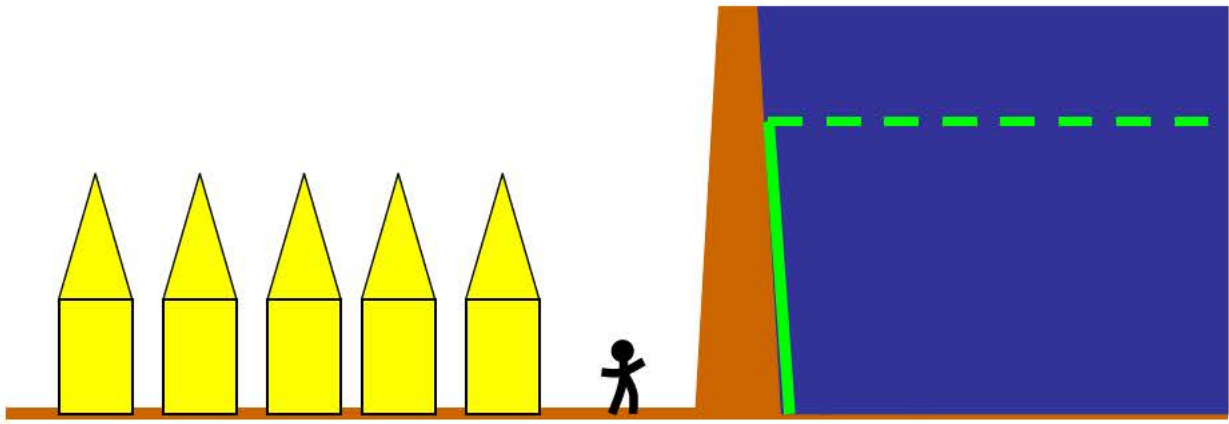
# 横断位置図



# 横断図







## 一気に堤防が壊れる

堤防をしぶとくする

洪水エネルギー抑制

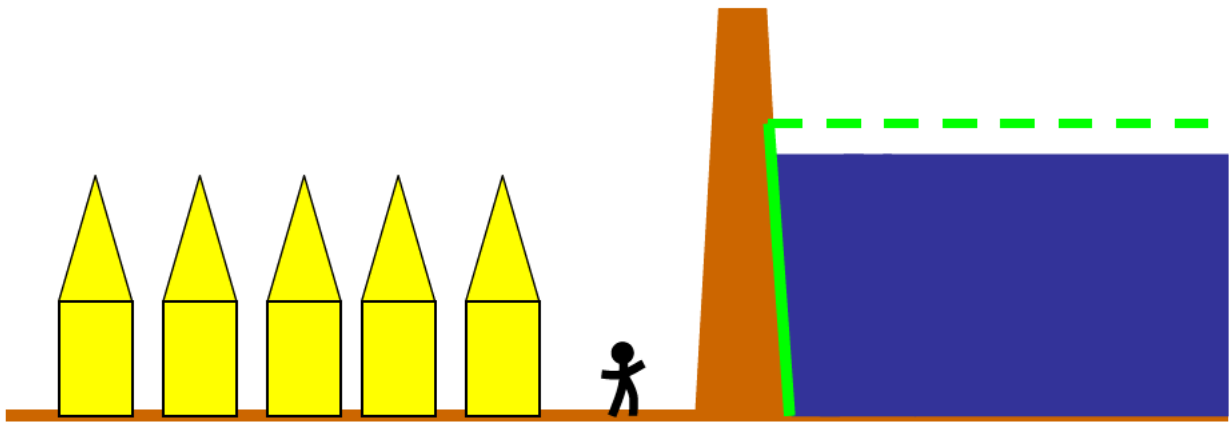
### 「基礎案」

いつ、どのような規模で発生するかわからない洪水に対して  
「破堤による壊滅的被害の回避・軽減を流域全体で最優先に取り組む」  
堤防強化、土地利用・流域対策等

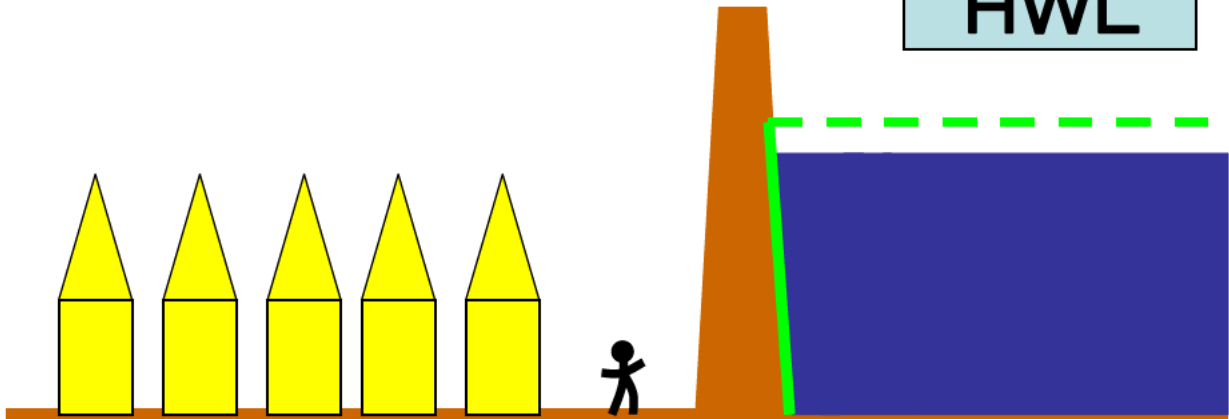


### 「原案」

宇治川、木津川、桂川  
「戦後最大洪水を計画高水位(HWL)以下で流下させる」  
淀川  
「計画規模洪水を計画高水位(HWL)以下で流下させる」



計画高水位  
HWL



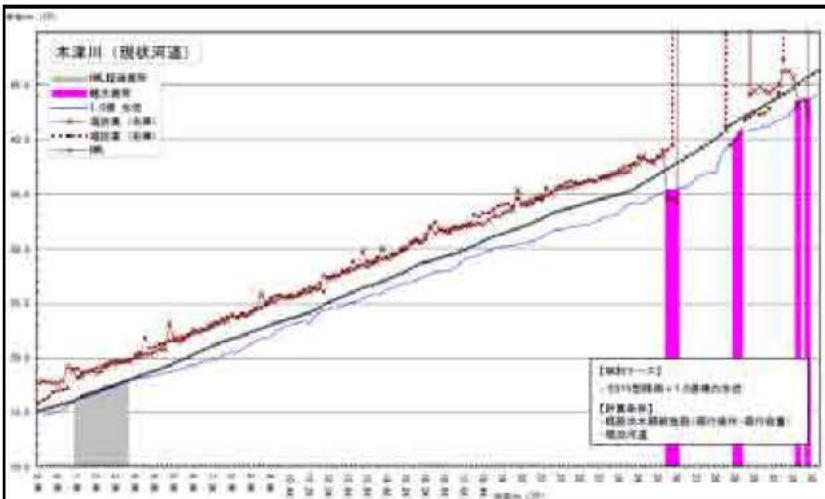
HWL以上堤防強化  
耐越水堤防強化  
計画に盛り込まず



河道掘削  
 橋梁架け替え  
 大戸川ダム  
 天ヶ瀬ダム再開発  
 川上ダム

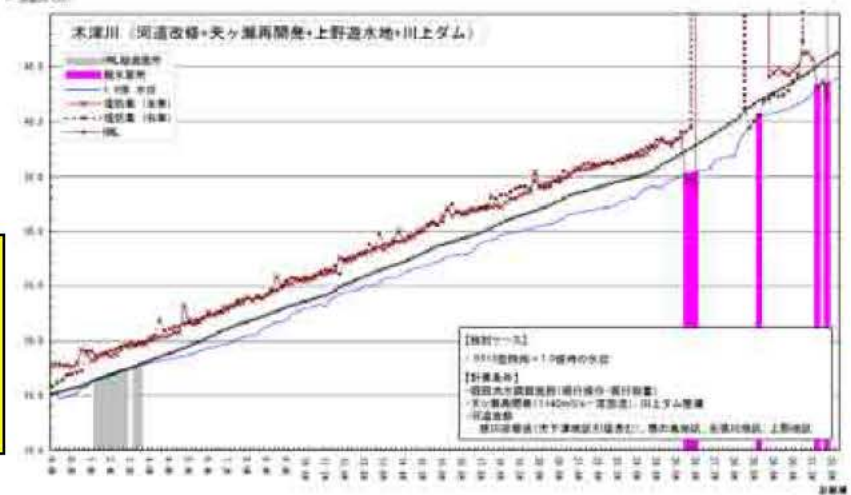
現状

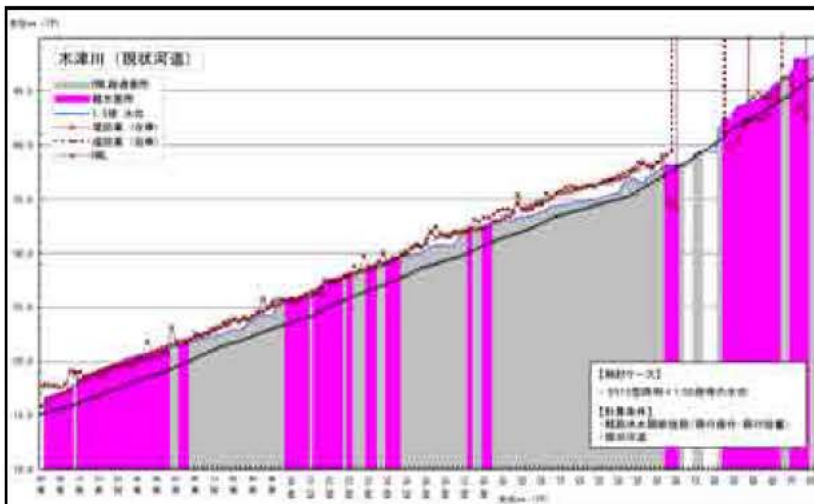
整備後



木津川  
 実績洪水  
 現状

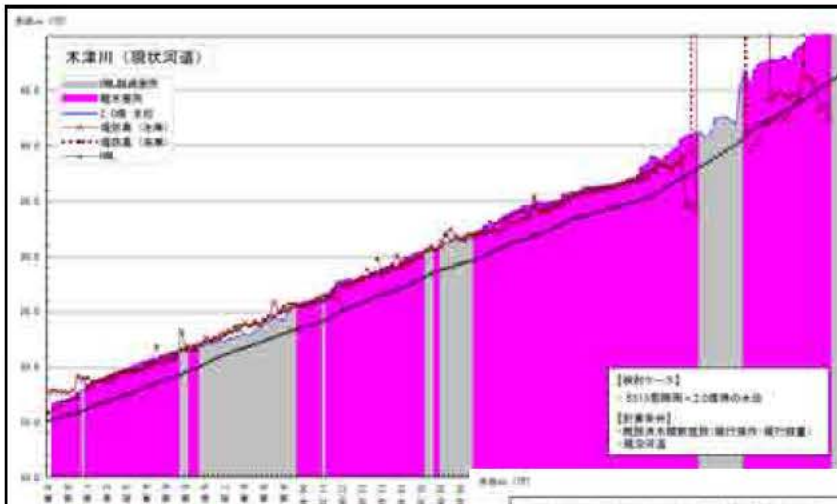
木津川  
 実績洪水  
 整備後





**木津川  
実績×1.5  
現状**

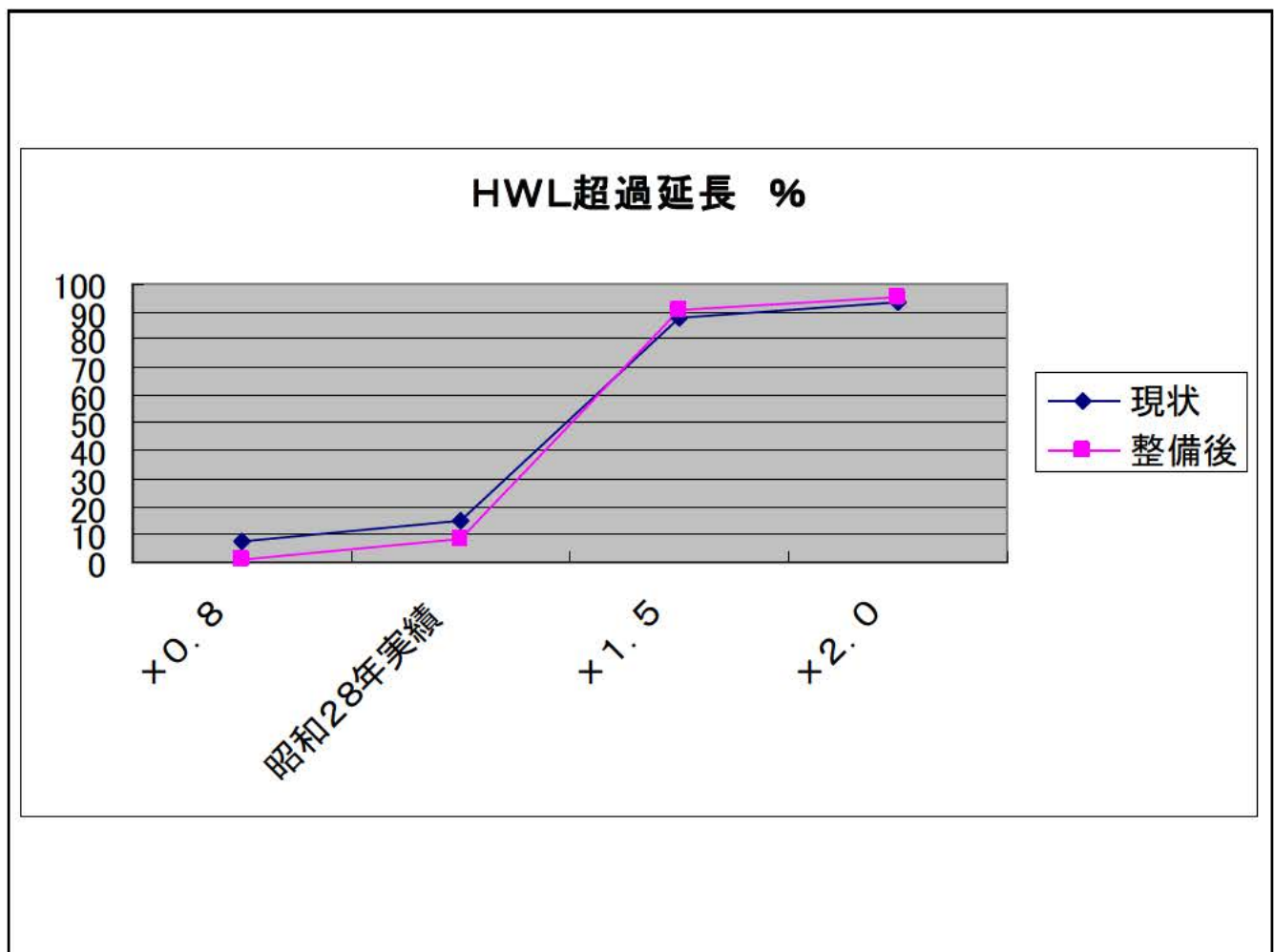
**木津川  
実績×1.5  
整備後**



**木津川  
実績×2.0  
現状**

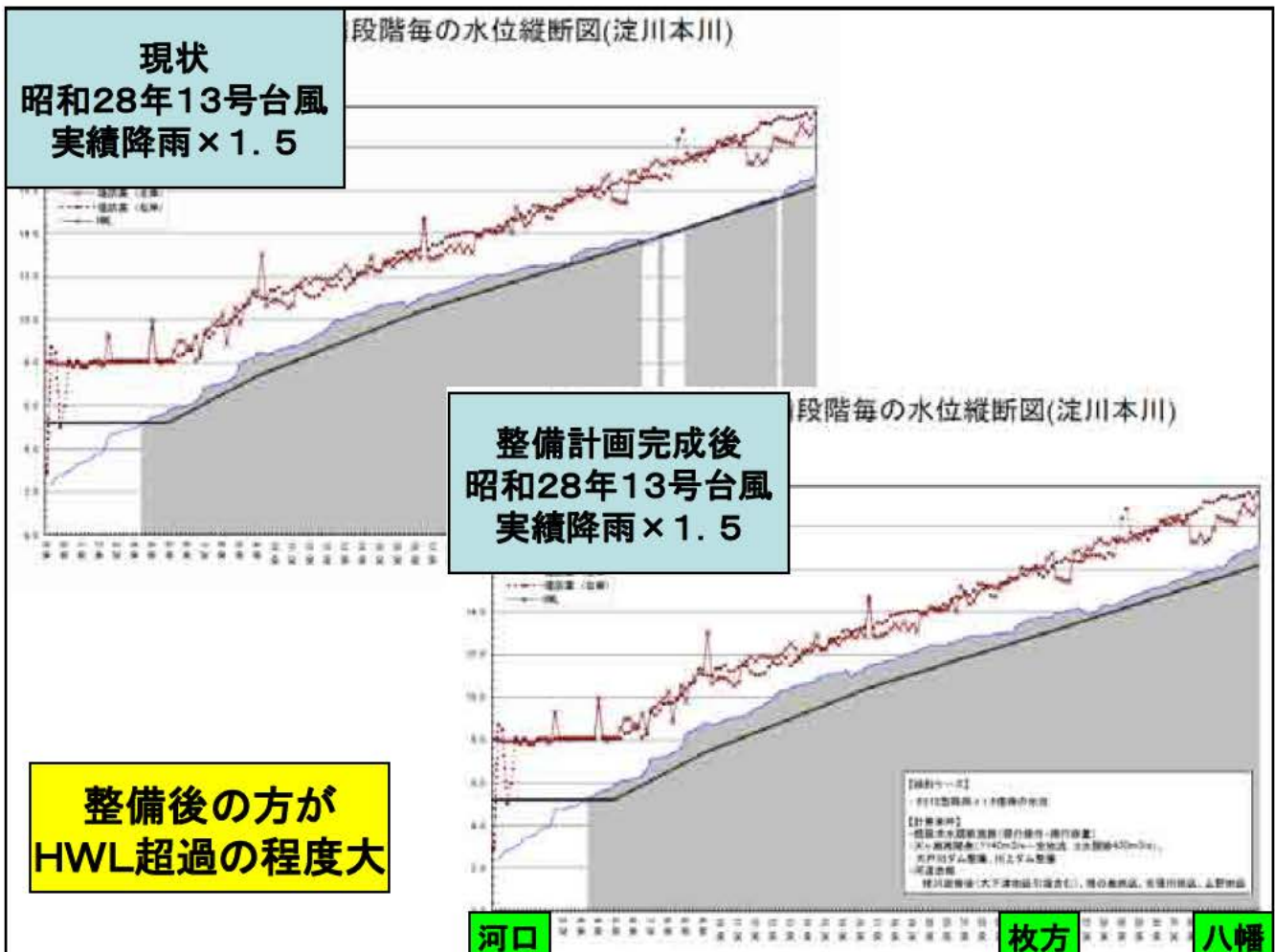
**木津川  
実績×2.0  
整備後**





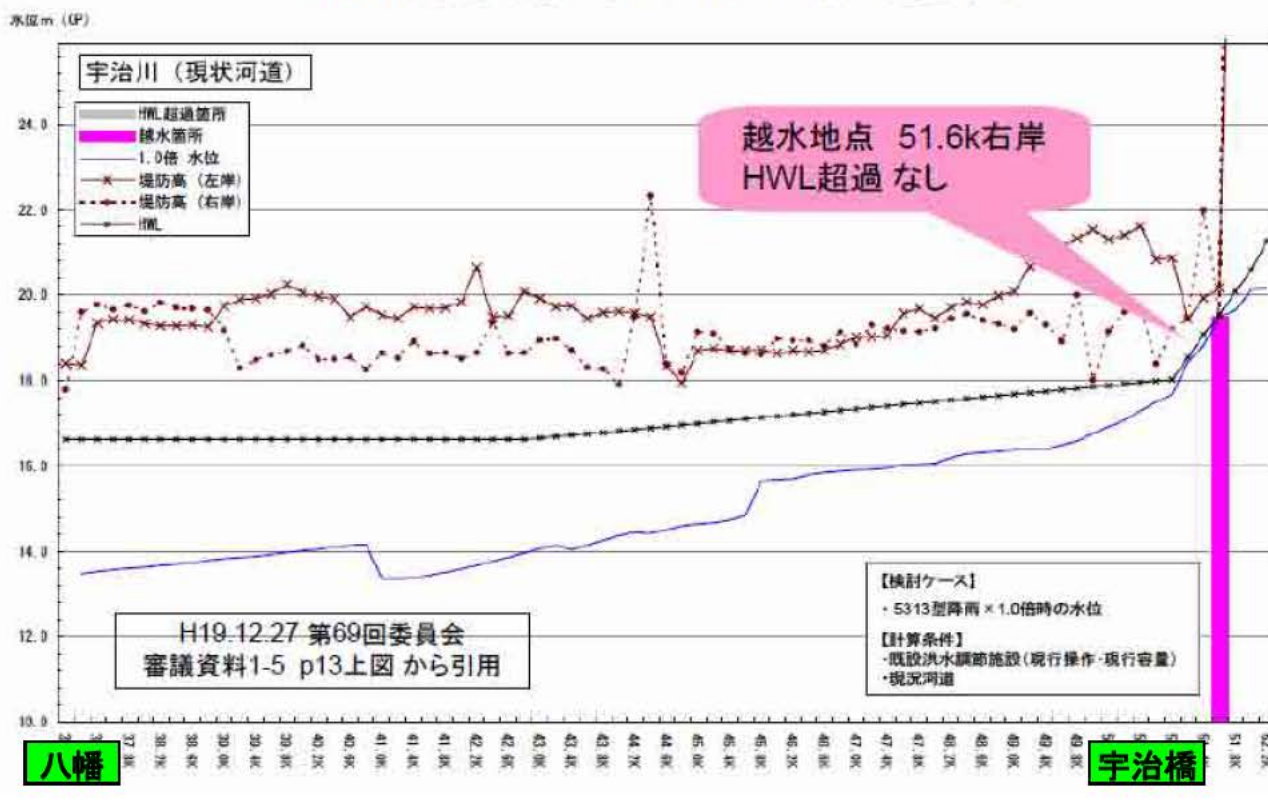
# ダム完成後

## HWL超過延長 現状と変わらない



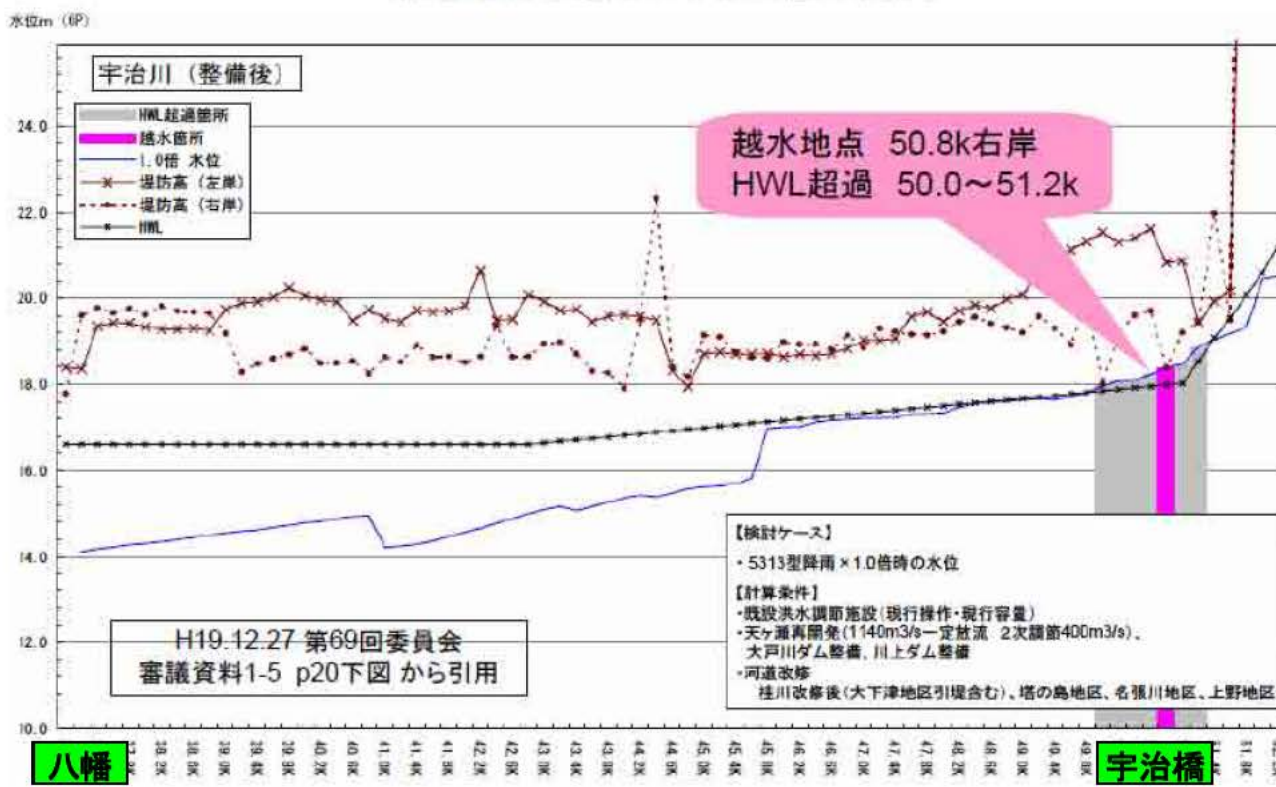
# 宇治川(現状)の越水箇所

～HWL超過区間はない。51.6k右岸で越水する～



# 宇治川(整備)のHWL超過箇所、越水箇所

～整備後は、現状よりも危険になる！～

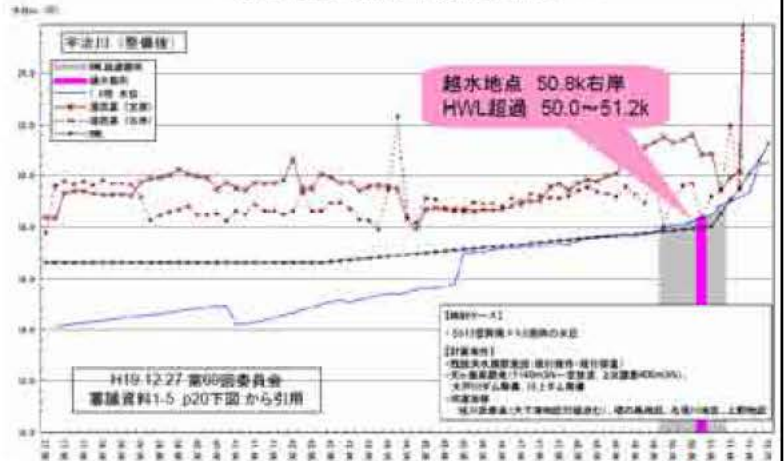


～HWL超過区間はない、51.6k右岸で越水する～



整備)のHWL超過箇所、越水箇所

～整備後は、現状よりも危険になる！～

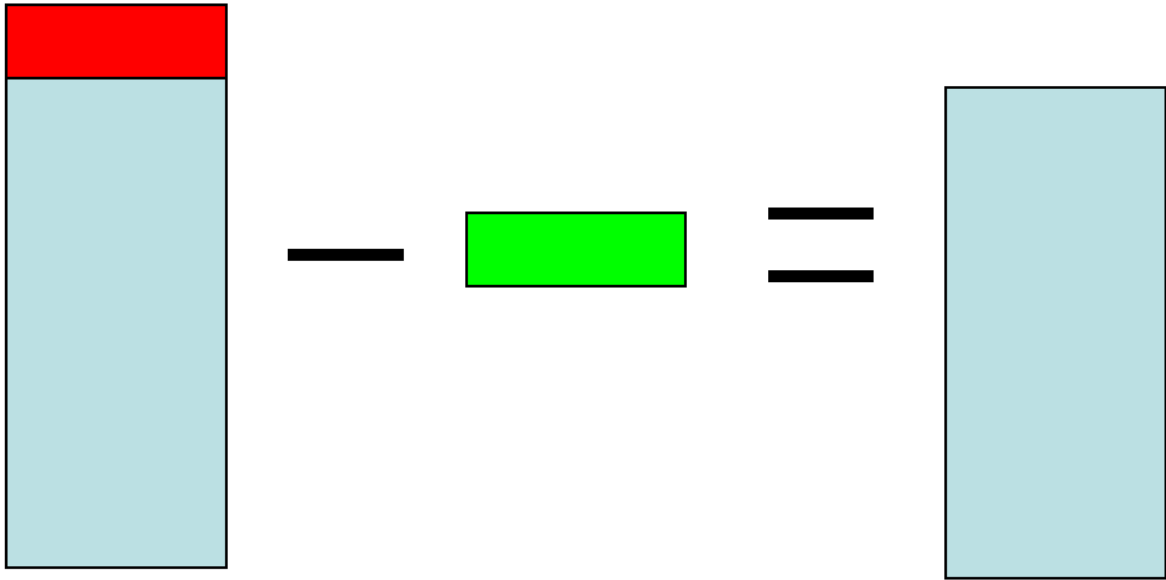


## ダム完成後

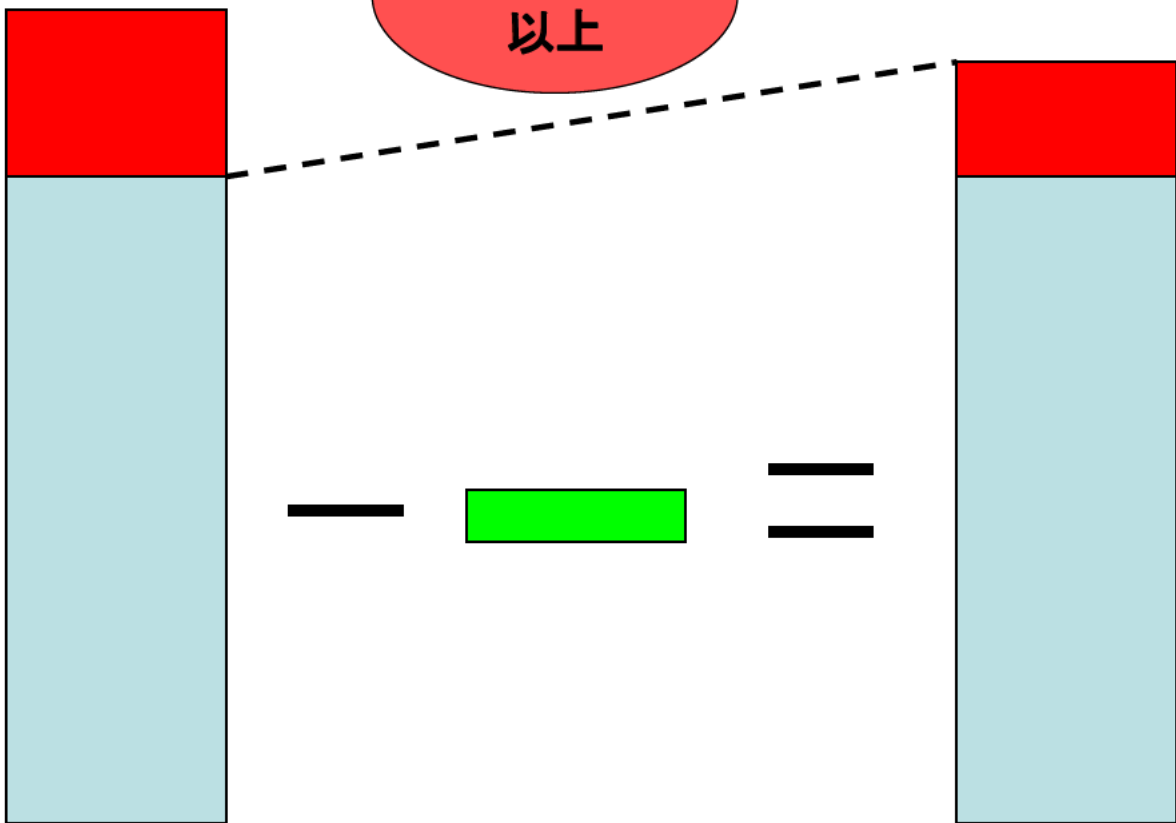
**HWL超過延長  
現状と変わらない**

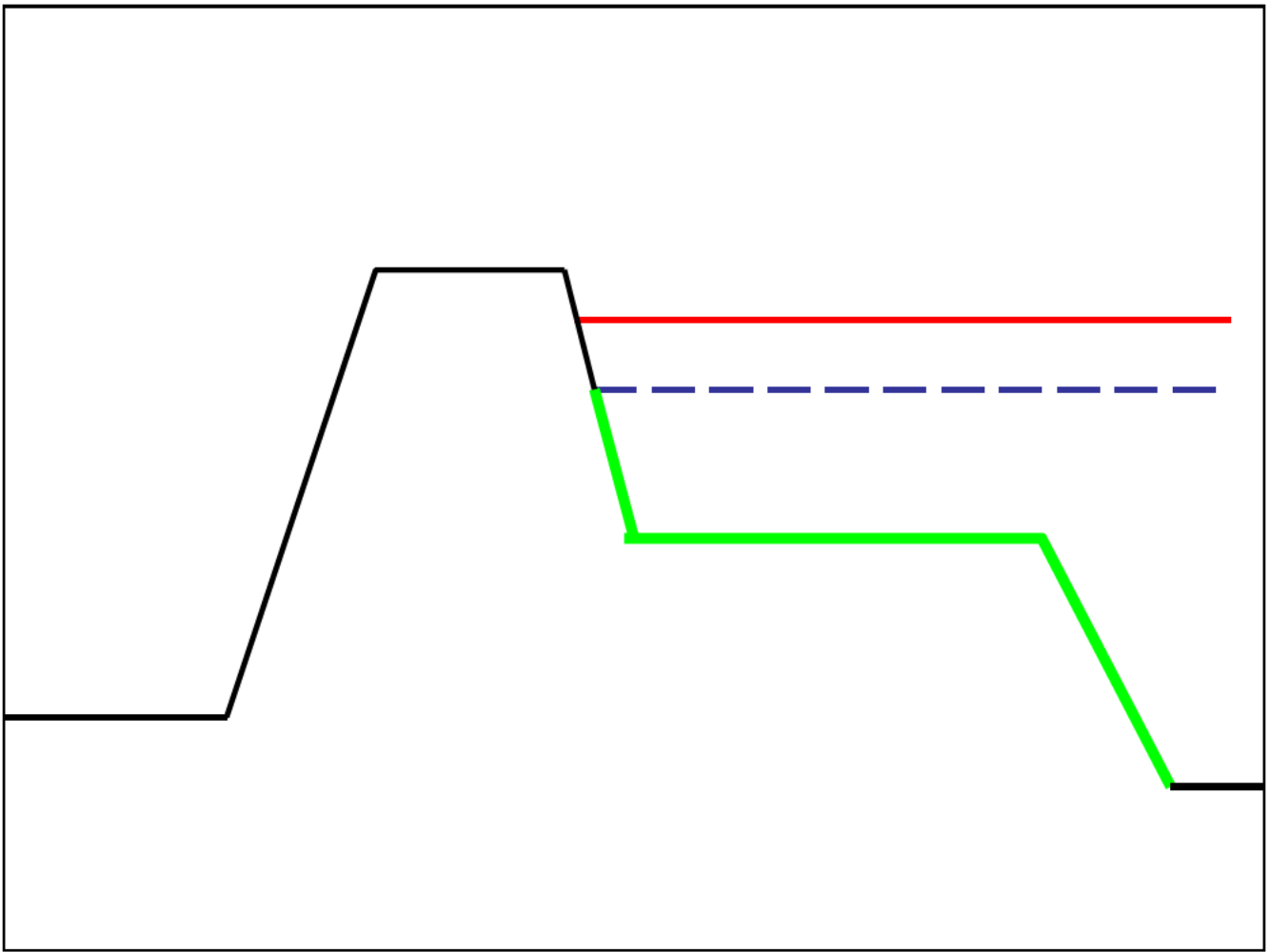
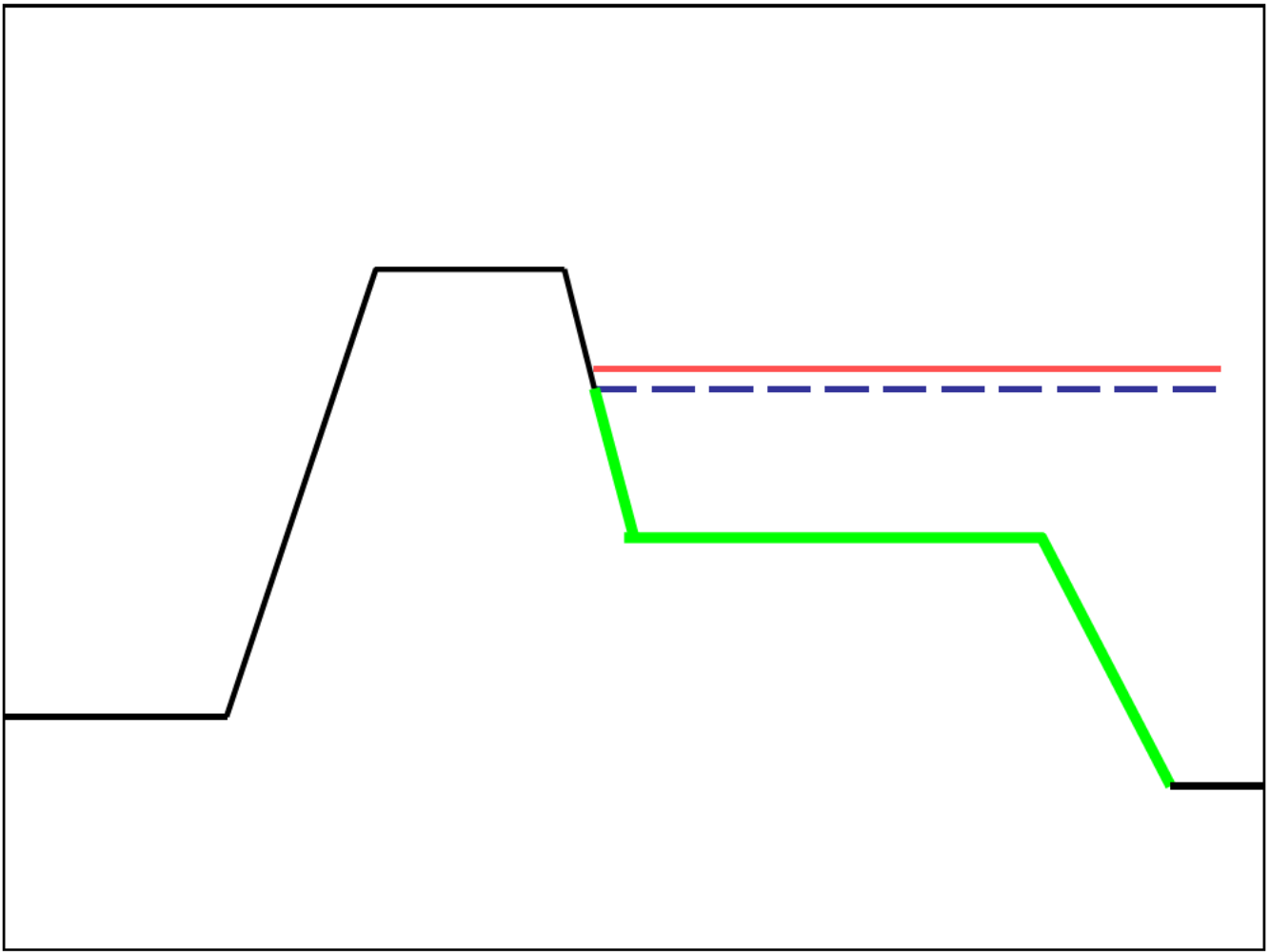
**危険性が増す区間も**

計画対象規模

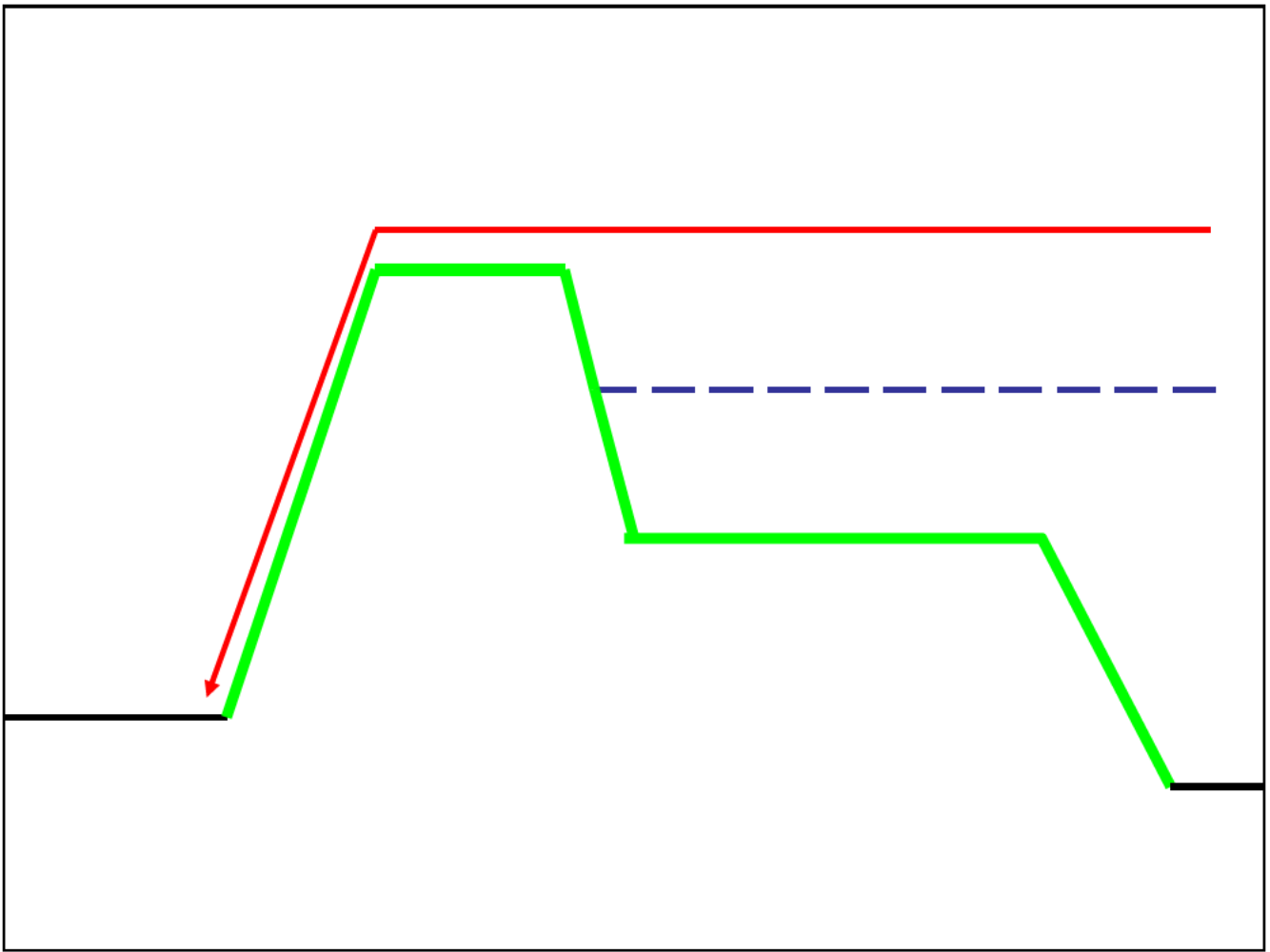
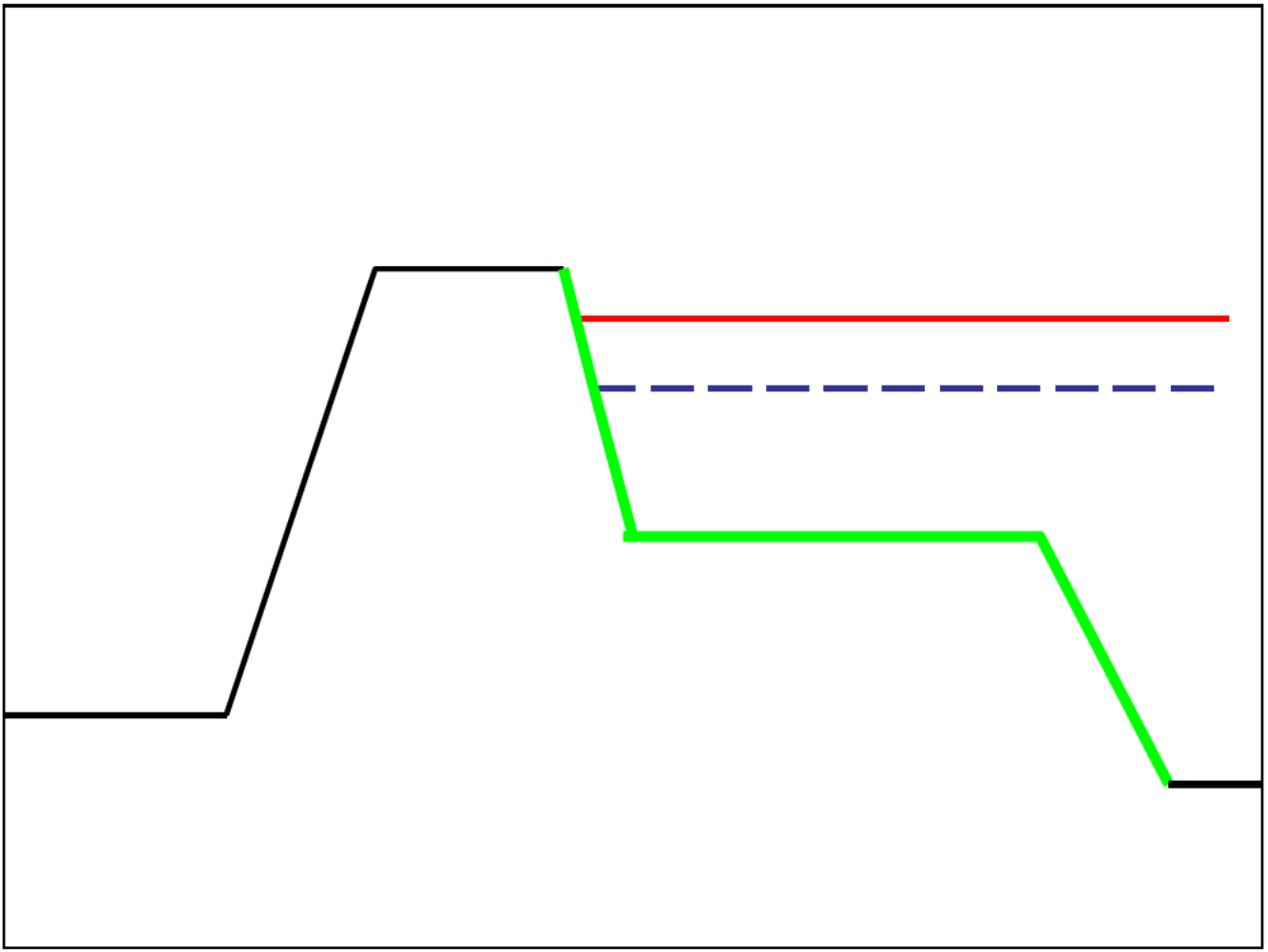


計画対象規模  
以上







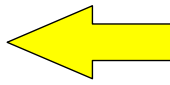


**破堤回避**



**堤防補強**

**最優先**



**川への  
負担軽減**

**流域貯留**



**土地利用  
地域づくり**



**下流流量  
増加抑制**

**穏やかな  
浸水**



- 住民の生命を守ることを第一として、際限のない自然現象に対し、想定を越える洪水が生じても被害を最小限にくい止めるため、避難体制の整備、土地利用計画を含めた流域対策、とりわけ「越水しても急激に破堤しない耐越水堤防」への強化対策に予算を有効に使い、破堤による壊滅的な被害の回避・軽減を流域全体で最優先に取り組むという姿勢で「原案」を見直すことを求める。

**HWL以上の堤防強化  
越水対策強化  
実施**

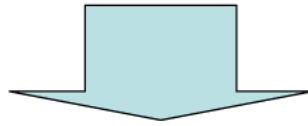
**2月20日委員会で一致**

**3. 従来型水資源開発の継続  
水需要管理の具体的施策欠如**

水需要に応じた  
水資源開発

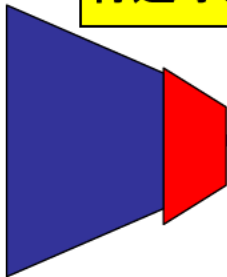


水需要管理

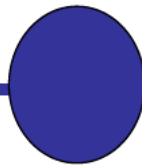


水需要抑制  
水需要の精査確認  
水利権見直しと用途間転用  
既存水資源開発施設再編と運用見直し

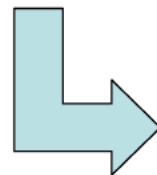
青蓮寺ダム



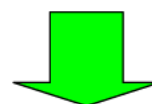
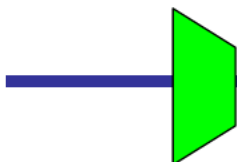
土地改良区  
調整池



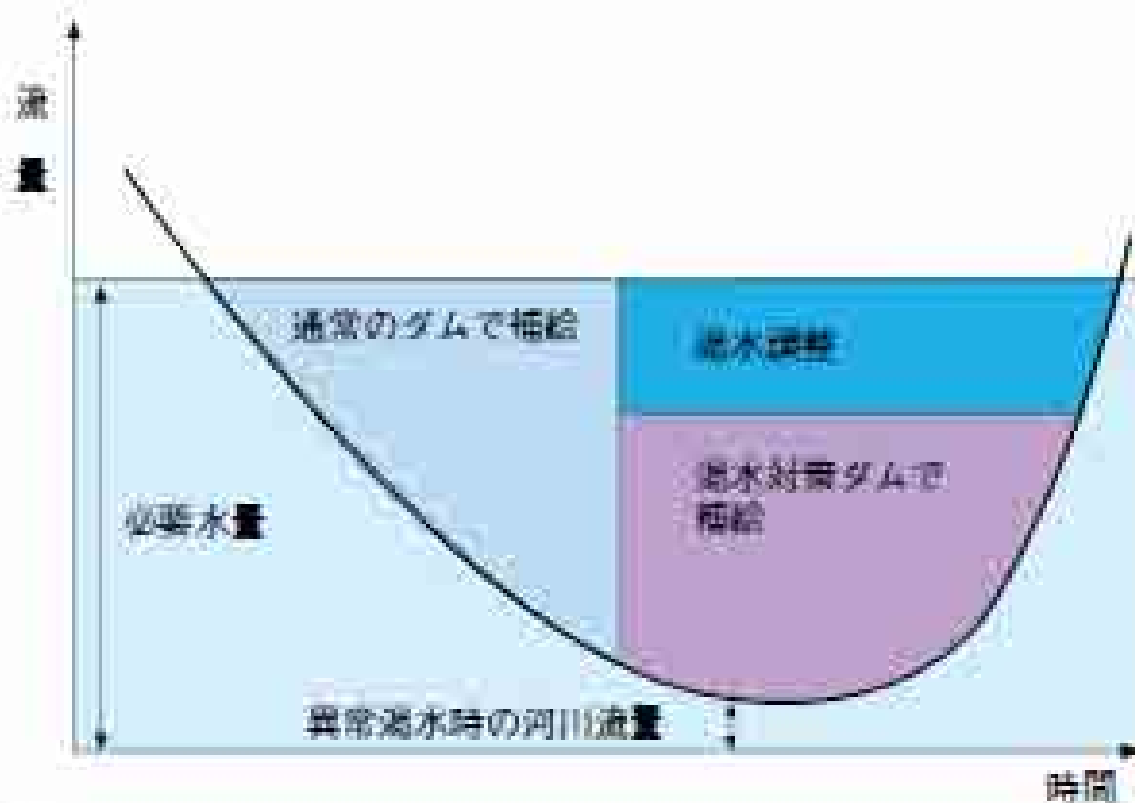
土地改良区  
幹線水路



川上ダム

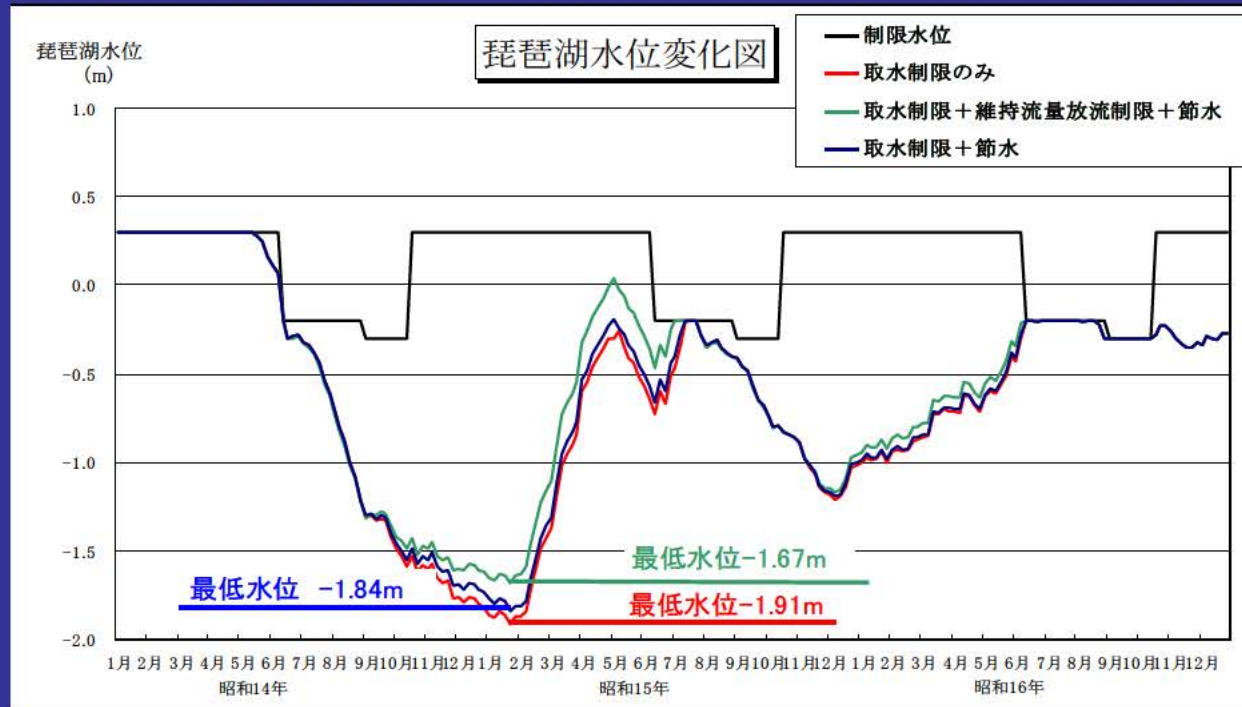


## ■ 渇水対策ダム



# 事業の必要性（異常渇水対策）

既往最大である昭和14年から昭和16年にかけて発生した渇水と同様の規模の渇水が発生した場合、琵琶湖の最低水位は**マイナス1.5m（利用低水位）を下回る**ため、異常渇水対策容量の確保が必要



対象渇水  
既往最大渇水(昭和14, 15年)  
?

琵琶湖マイナス1.5m  
1.5m~2m  
?

大川維持流量  
昭和59年レベルカット  
?

申し合わせ事項

1. 開発水量は、水利権量毎秒40立方メートルとする。
2. 利用低水位は、-1.5メートルとする。
3. 非常渇水時における操作については、関係府県知事の意見を徴し、建設大臣がこれを決定する。

昭和47年3月27日

政調会長	小坂善太郎
建設大臣	西村英一
大蔵大臣	水田三喜男
経済企画庁長官	木村俊夫
自治大臣	渡海元三郎
大阪府知事	黒田了一
兵庫県知事	坂井時忠
滋賀県知事	野崎欣一郎

淀川大堰

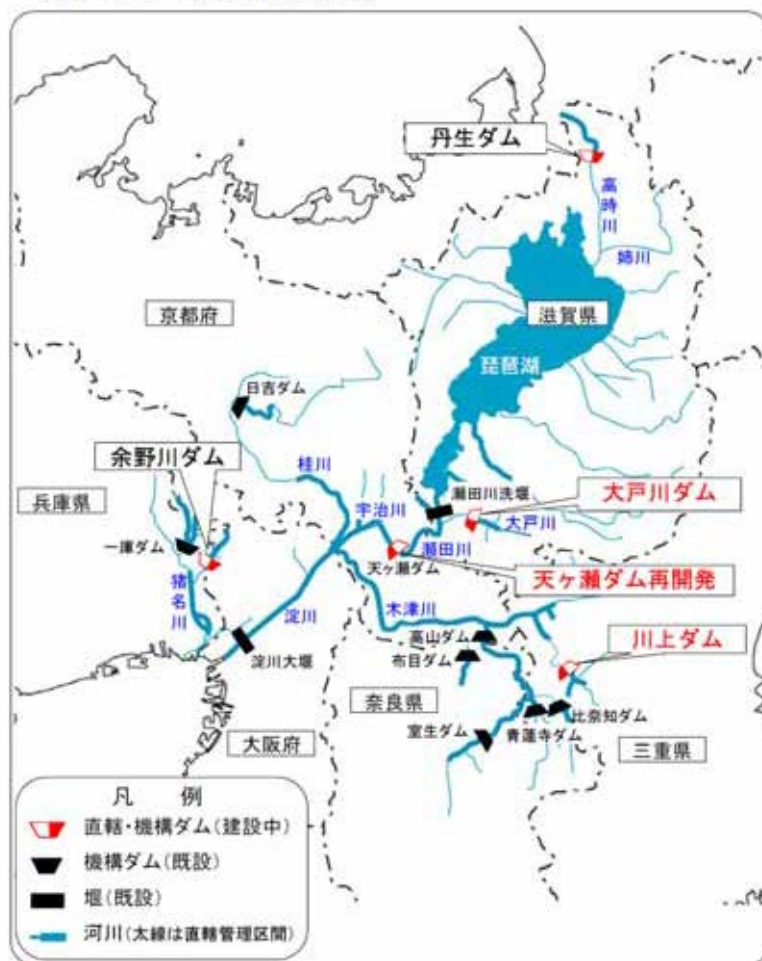


維持流量  
60m<sup>3</sup>/s

- 川上ダムに係わる三重県伊賀水道事業の新規水資源開発や丹生ダムに係わる異常渇水対策容量の確保について、水需要の抑制、水利権の見直しと用途間転用、異常渇水時の取水制限の強化、維持流量の削減等の施策を進め、できるだけダム等のハード施設の建設を抑制して、水需要管理を積極的に実施しようとする姿勢が見られない。
- 需要に応じて新たに水資源開発を行うという従来の発想を転換して水需要管理に積極的に取り組むという姿勢で「原案」を見直すことを求める。

## 4. 個々のダム計画

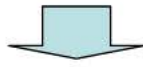




河川環境に与える影響や社会的影響から、ダムはできるだけ建設しない方がよい。

しかしどうしても必要であるという場合には、他の施設にも増して徹底的な検討を行い、十分な説明責任を果たす必要がある。

戦後最大洪水  
流下させる



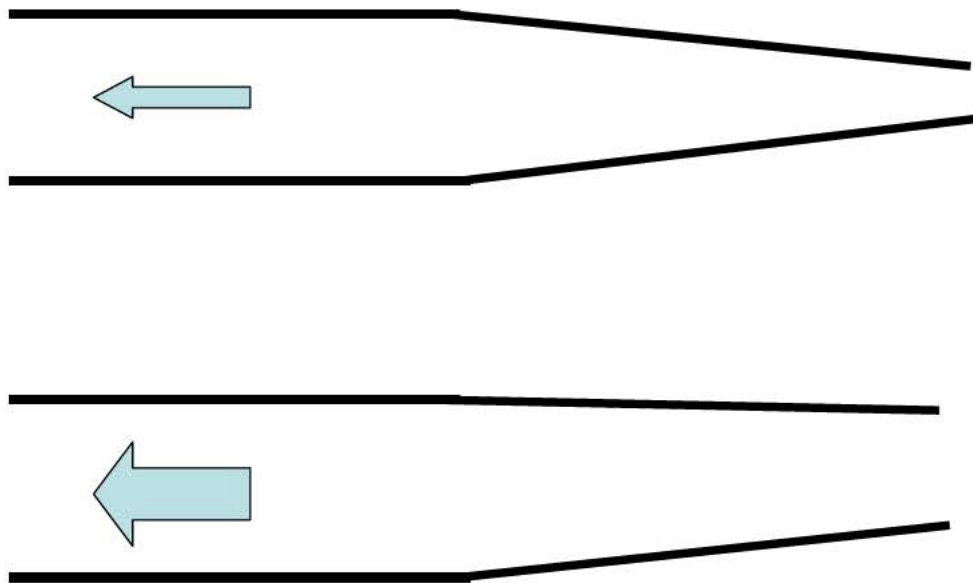
桂川河道  
掘削



計画規模洪水  
淀川水位  
HWL UP



大戸川、天再、川上  
ダム必要

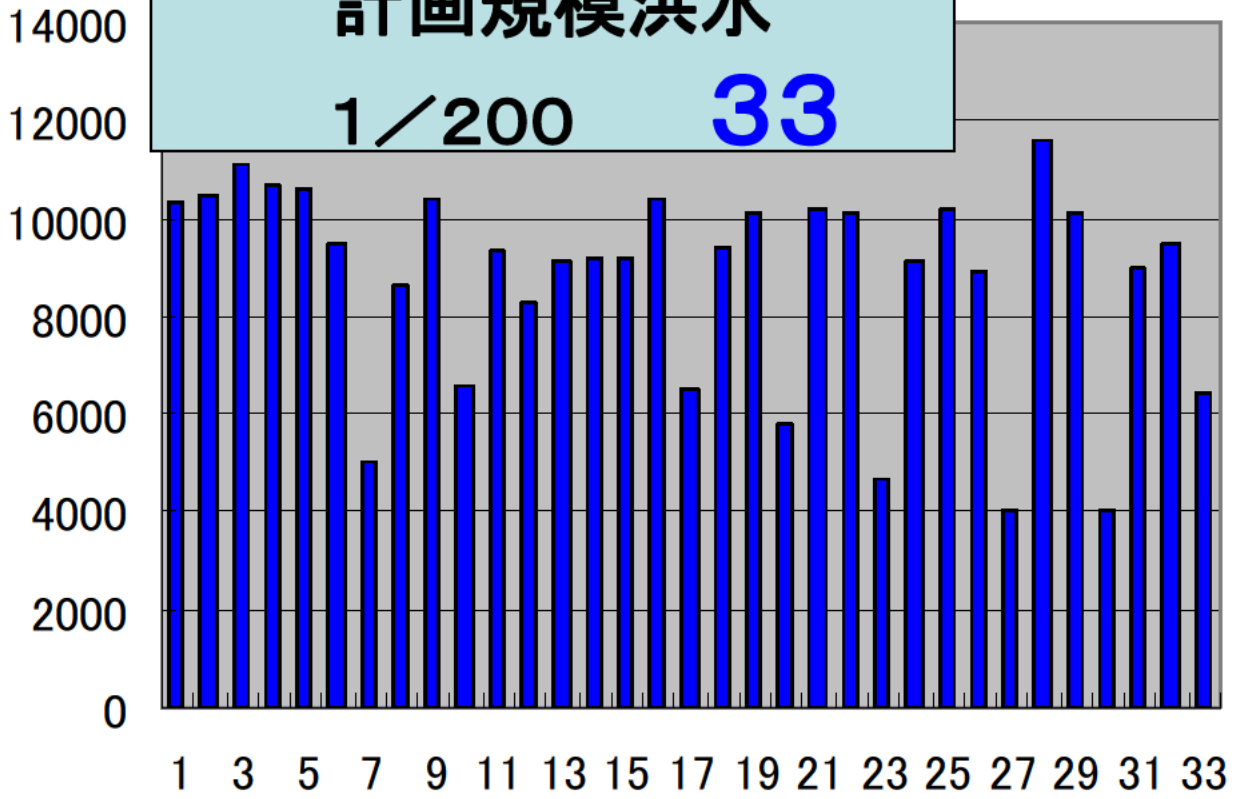


200年に1回の大雨  
33の降り方でチェック

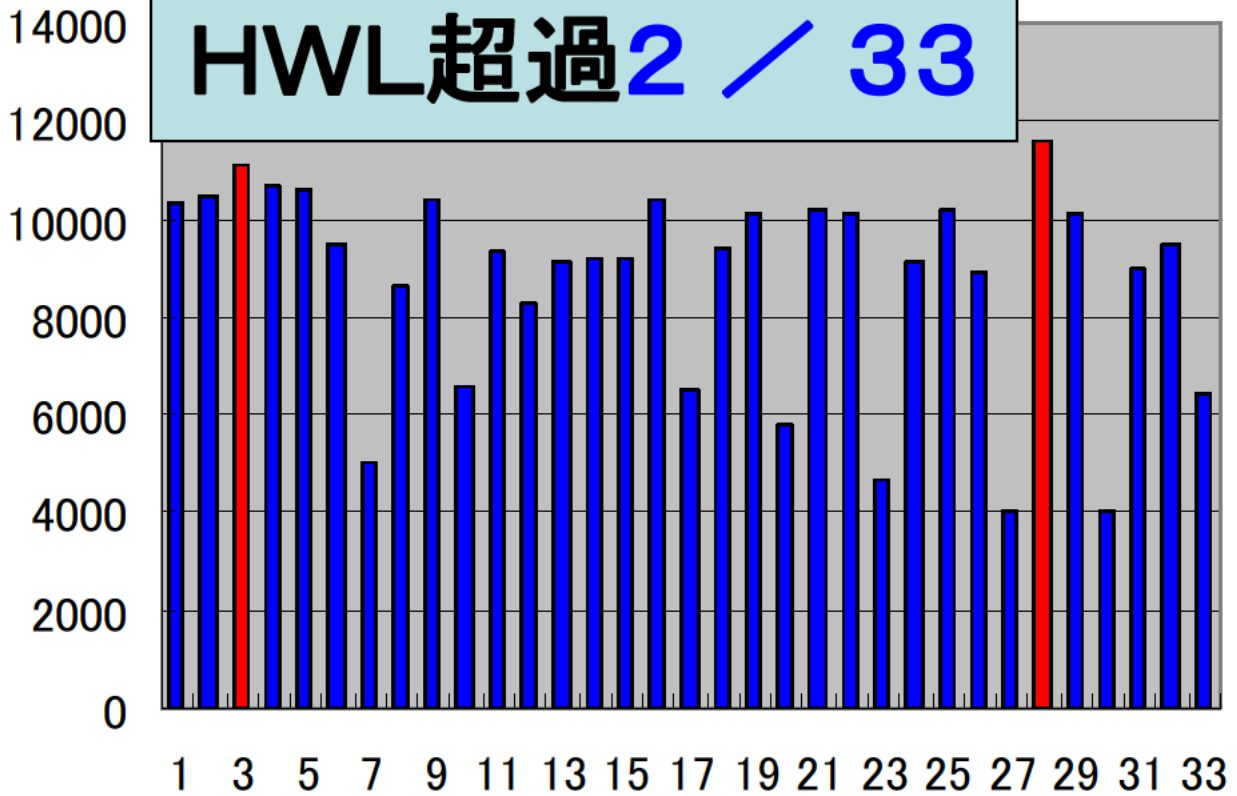
# 計畫規模洪水

1 / 200

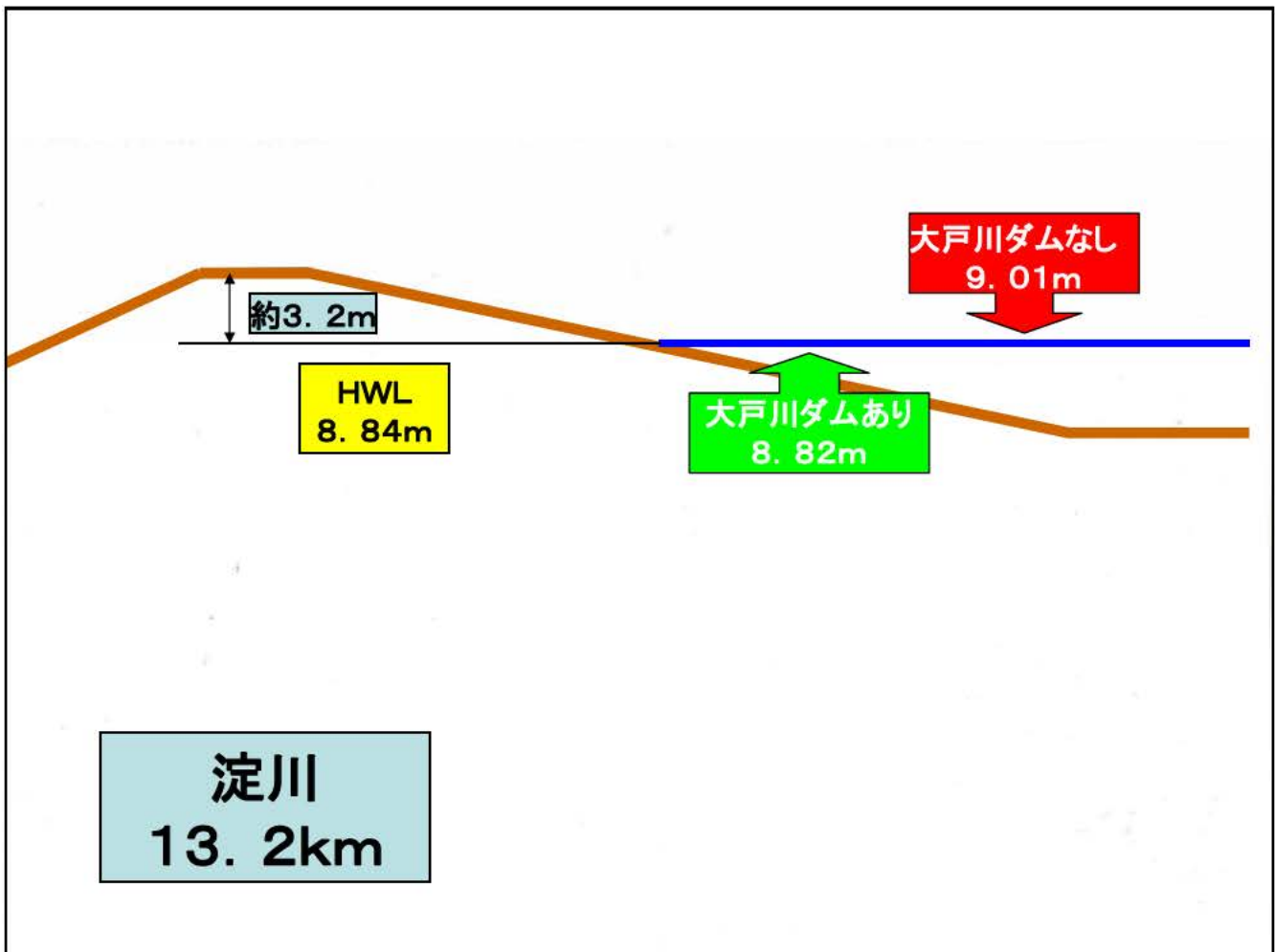
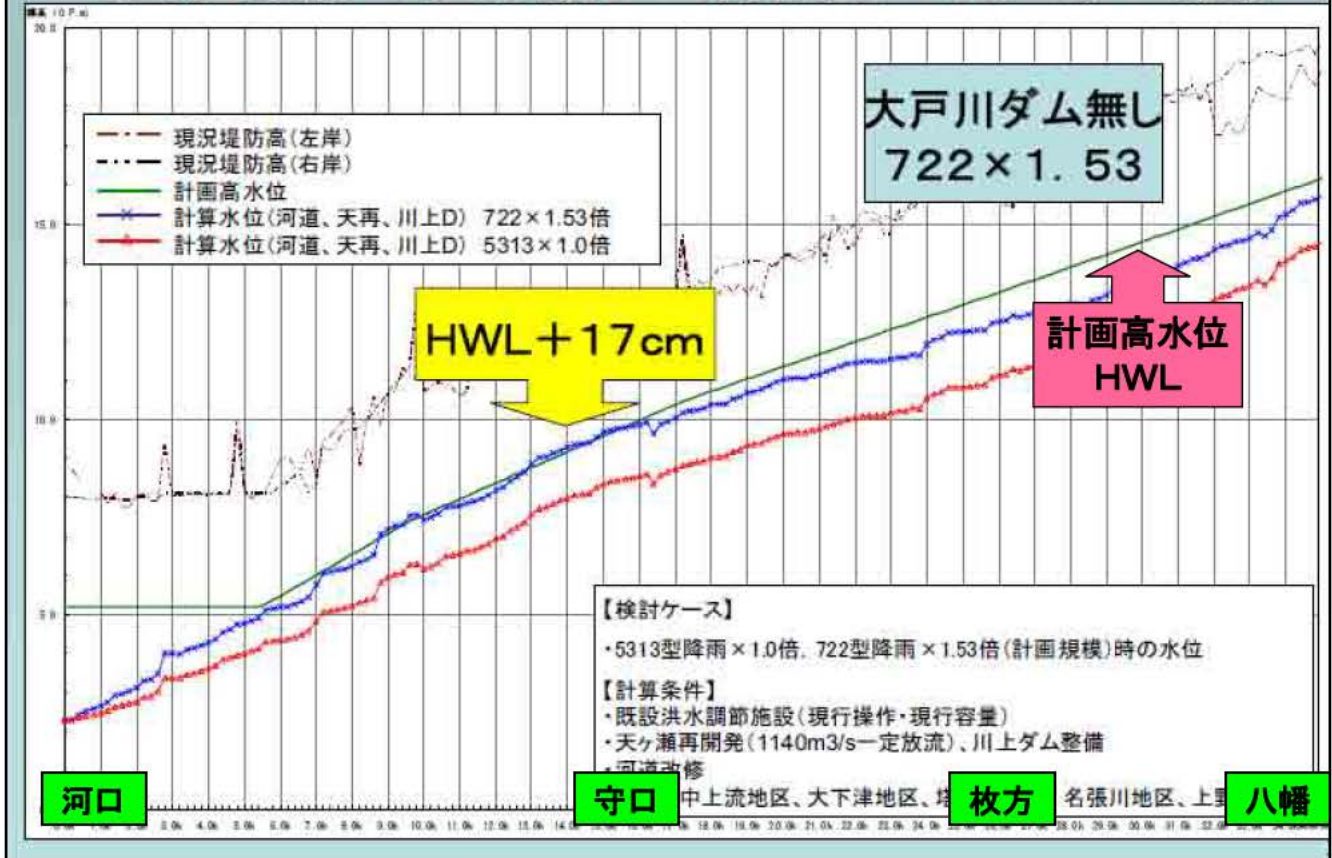
33



# HWL超過 2 / 33



# 淀川水位縦断図 (河道改修+天ヶ瀬ダム再開発+川上ダム後)



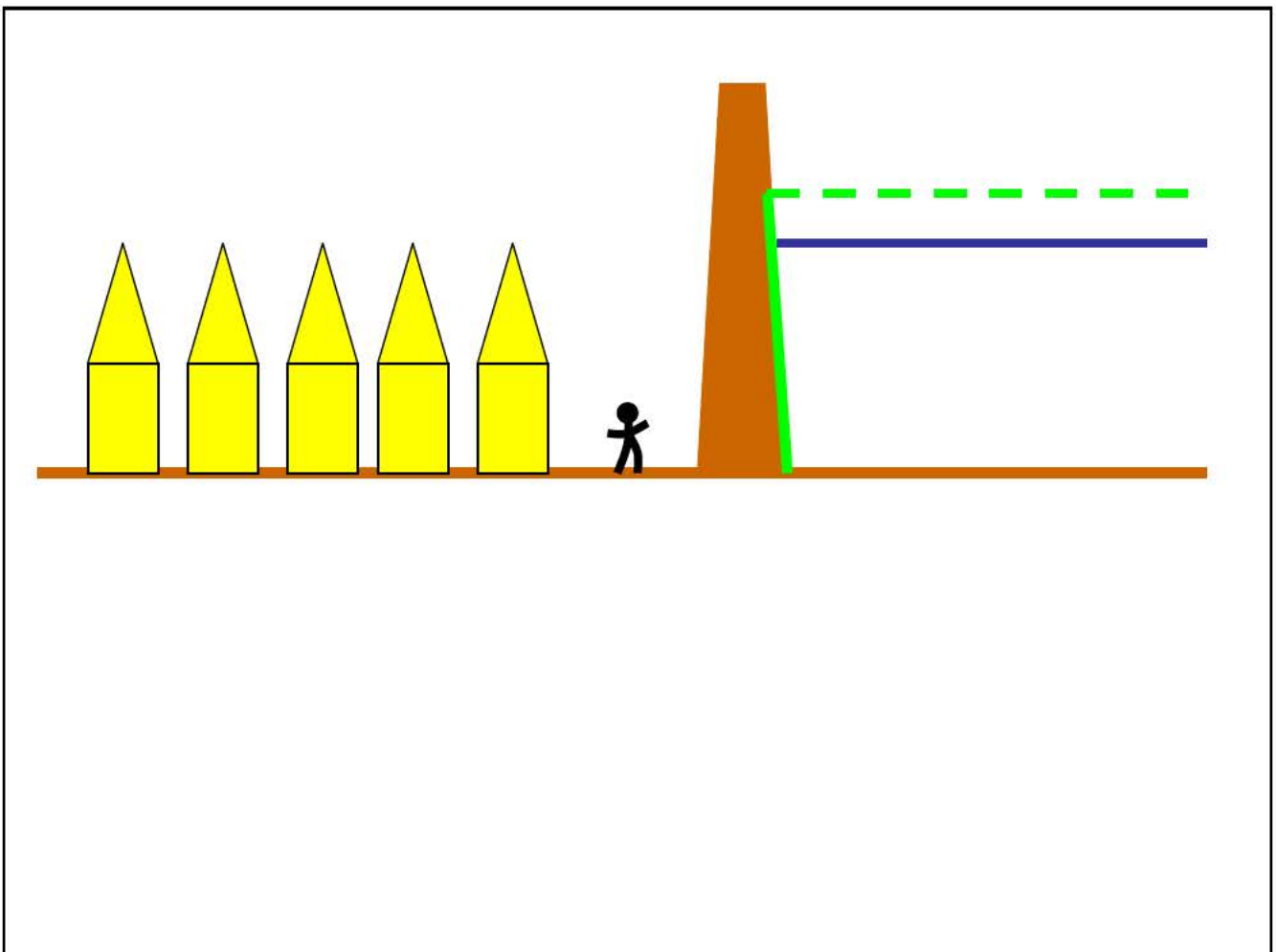
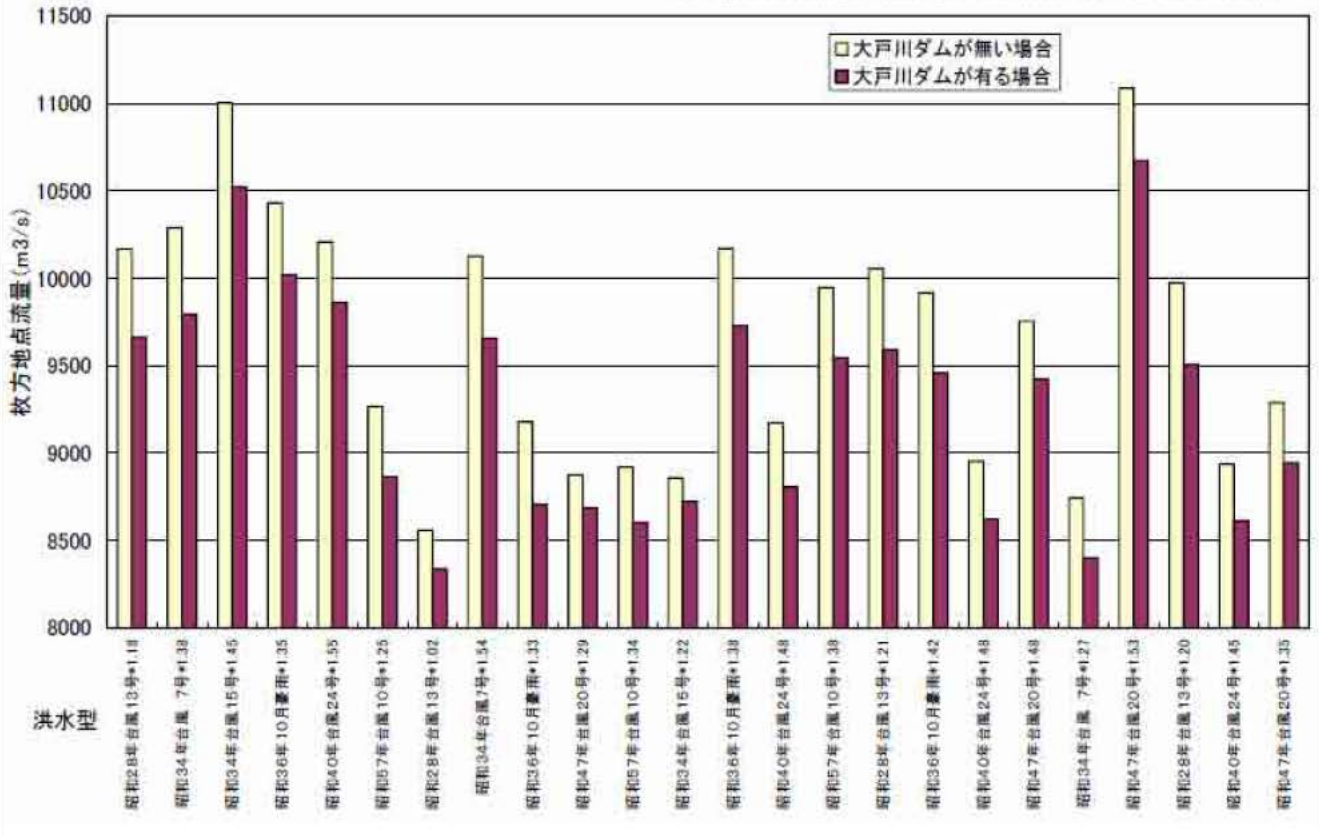


## 大戸川ダム効果

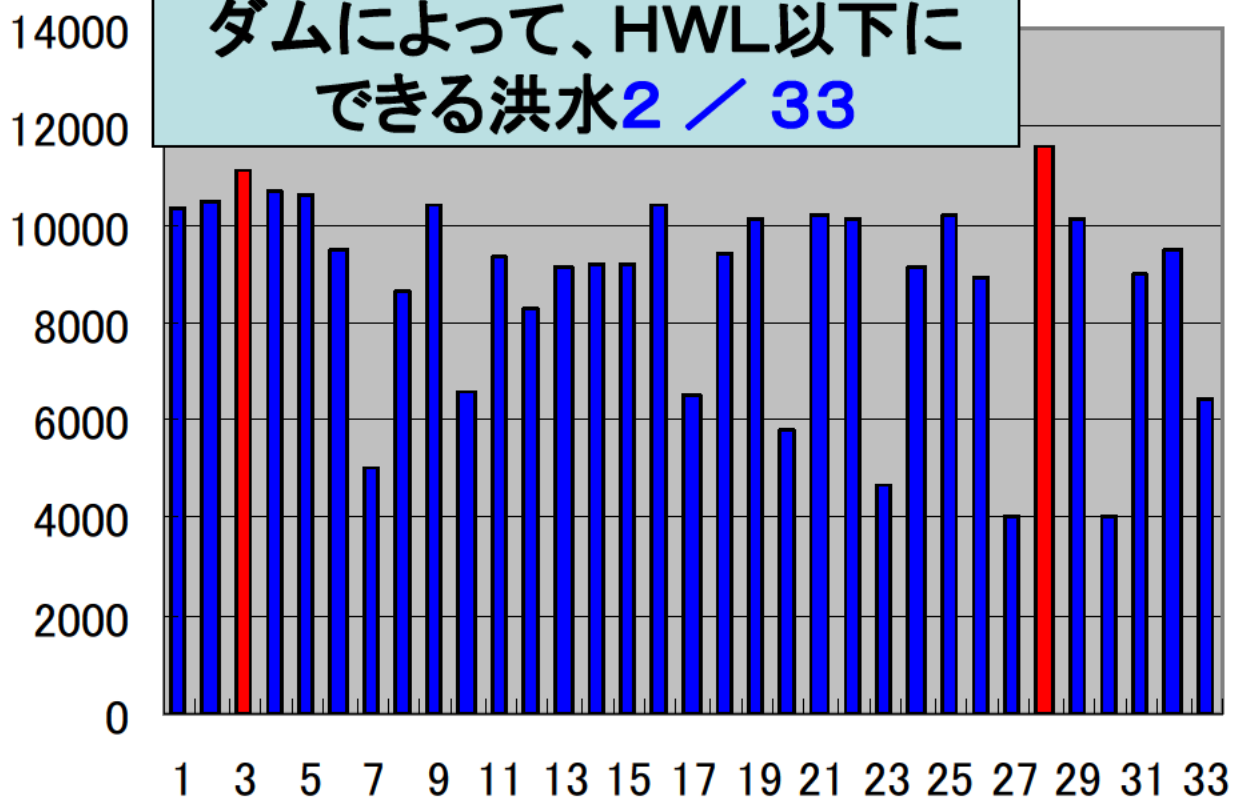
小さいか、どうか？  
小さくても、  
どうしても必要か？

# 大戸川ダムは様々な降雨パターンにおいて効果を発揮する

※計画対象33洪水の内、枚方流量が8,000m<sup>3</sup>/s以上となる大きな洪水を抽出

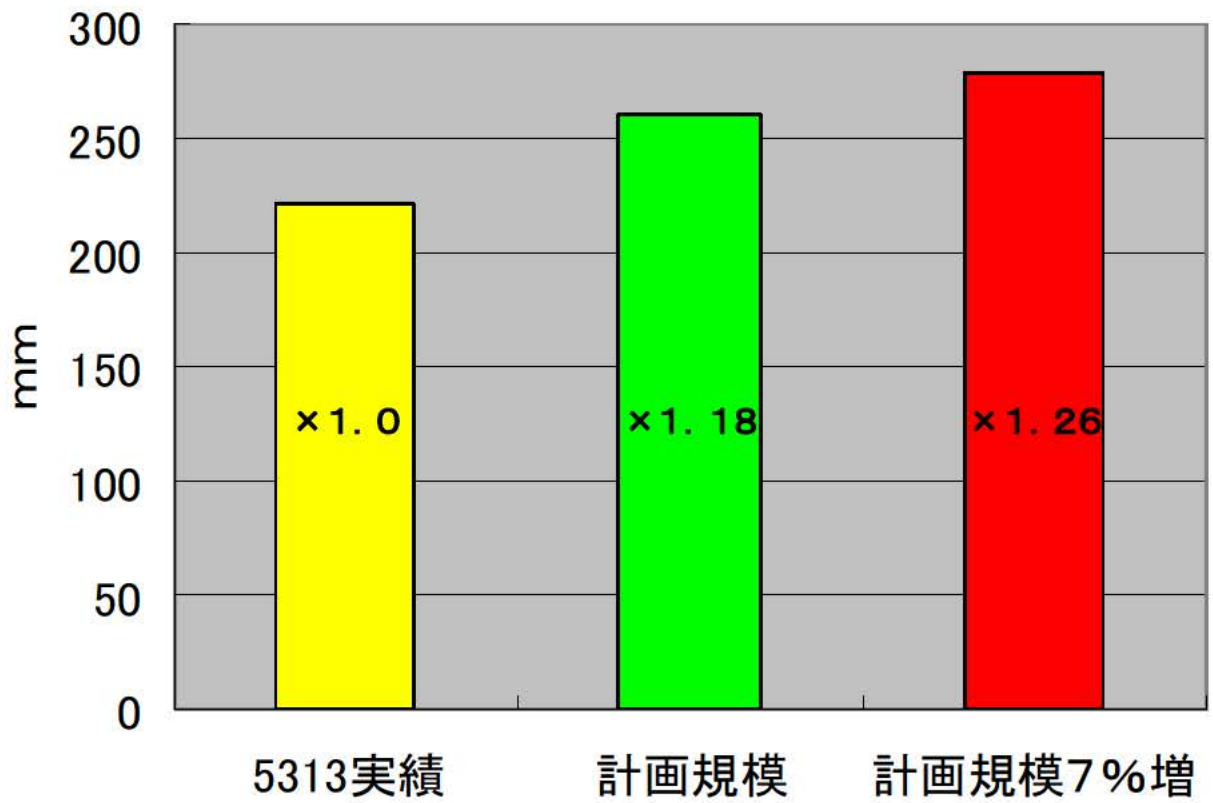


ダムによって、HWL以下に  
できる洪水2 / 33

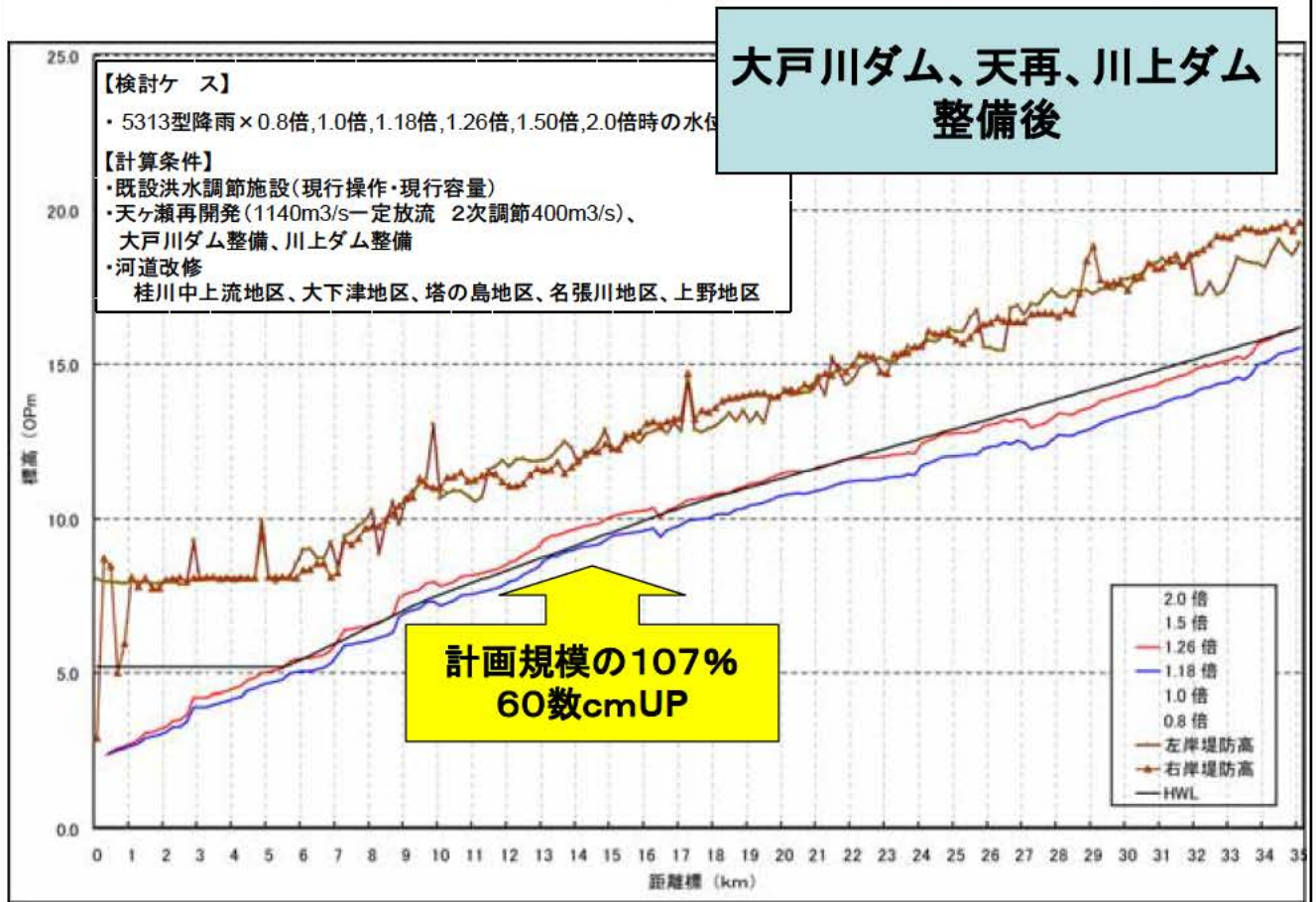


計画規模洪水による  
チェック

必要であるが  
十分でない



### 洪水規模および整備段階毎の水位縦断図(淀川本川)





極めて、極めて  
危険

ダムが完成しても  
HWL以下に  
抑えられない

計画規模の  
7%増の雨なら

極めて危険

ダムがなくても  
HWL以下

ダムがあっても  
HWL以上



洪水規模

ダム効果が小さいため  
ダムによってHWL以下に  
水位を抑えることができる  
洪水規模は限られる

# 大戸川ダム効果

限定的か、どうか？

限定的でも

どうしても必要か？

## 上野遊水地事業(木津川)

戦後最大流量に対応する改修内容



上野遊水地  
周囲堤  
締め切り

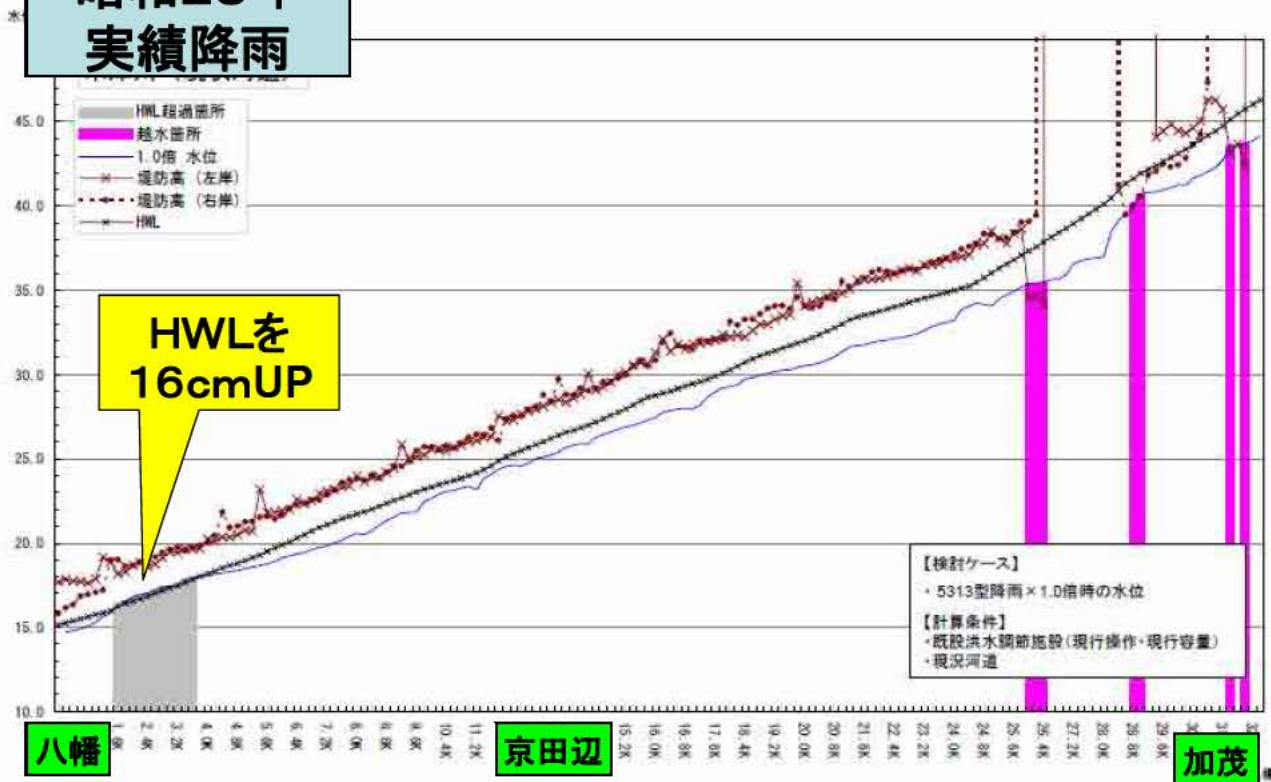
河道改修後

岩倉峡下流  
流量増  
200m<sup>3</sup>/s

川上ダム  
200m<sup>3</sup>/s  
キャンセル

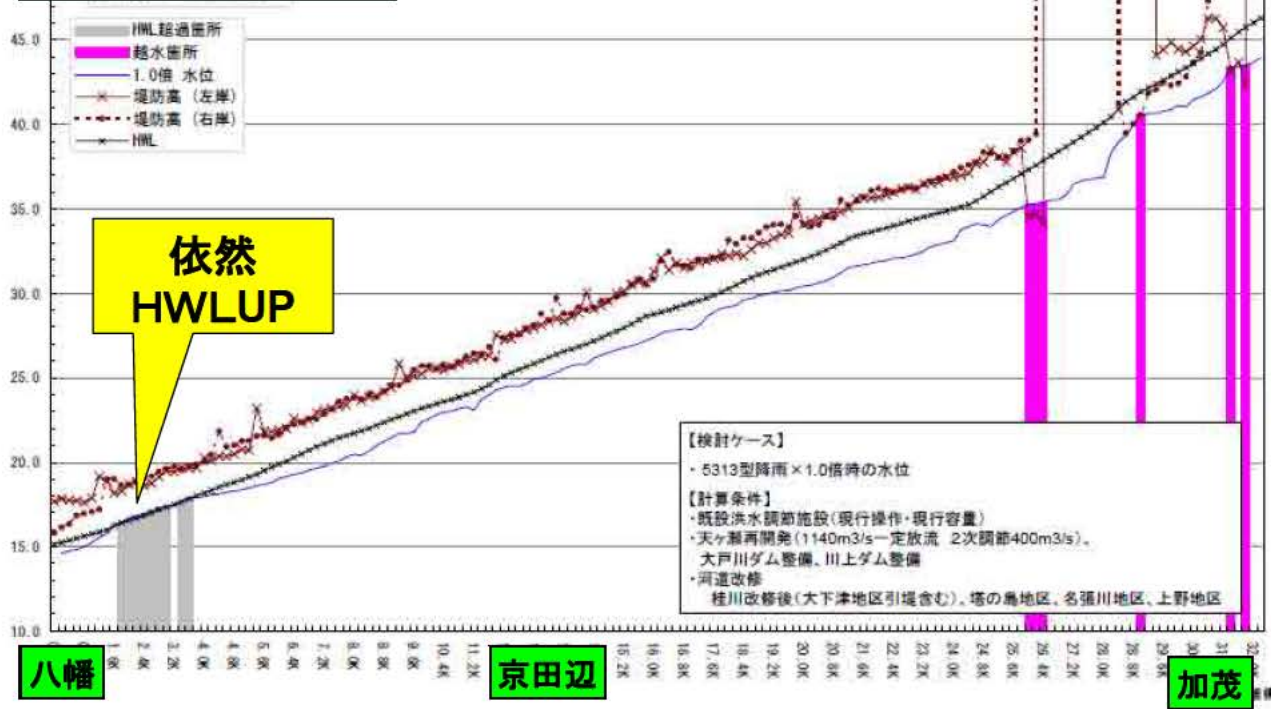
現状  
昭和28年  
実績降雨

および整備段階毎の水位縦断図(木津川)



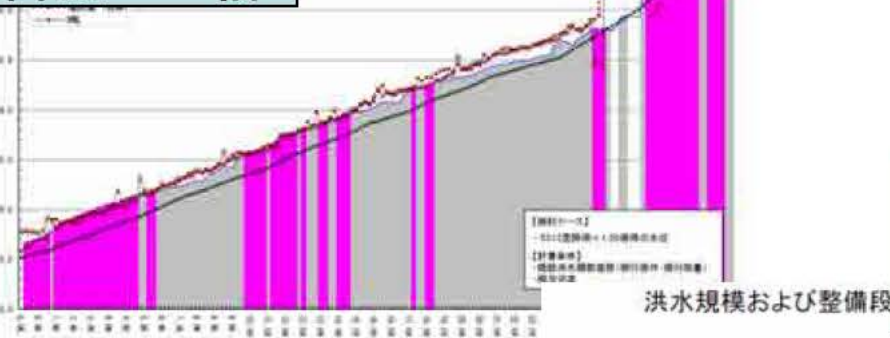
# 川上ダム完成後および整備段階毎の水位縦断面図(木津川)

## 昭和28年実績降雨



# 現状

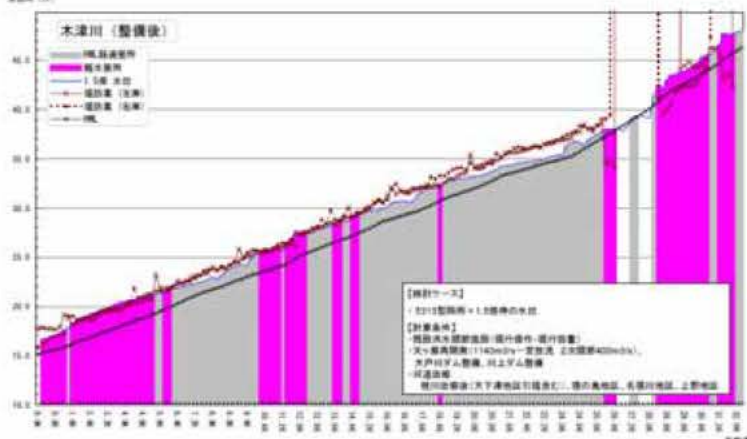
## 昭和28年降雨1.5倍



# 川上ダム完成後

## 昭和28年降雨1.5倍

**越水、HWL超過延長ほとんど変わらず**



木津川下流に対する効果

極めて小さく、限定的

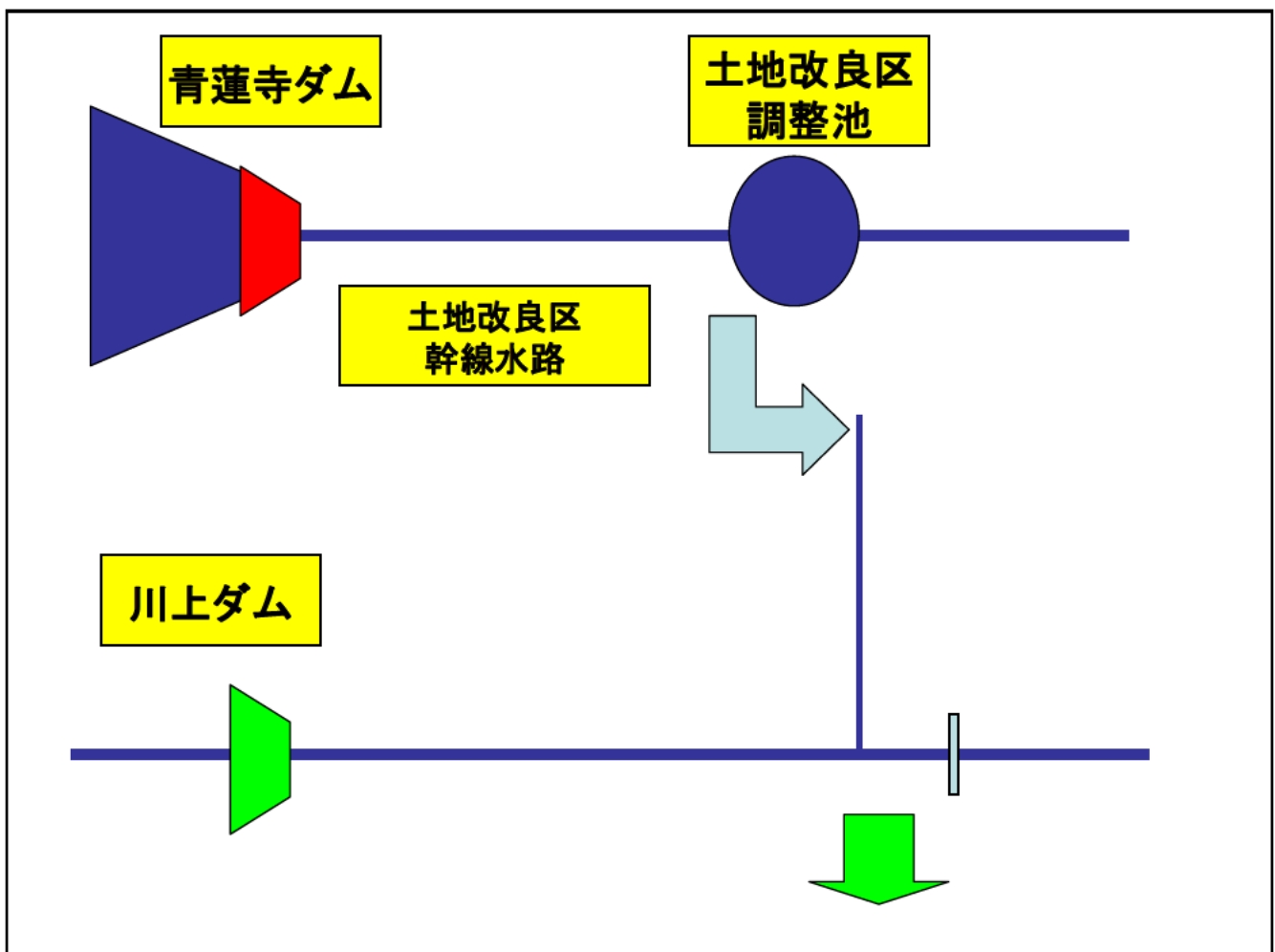
淀川に対する効果  
大戸川ダム・天ヶ瀬再開発

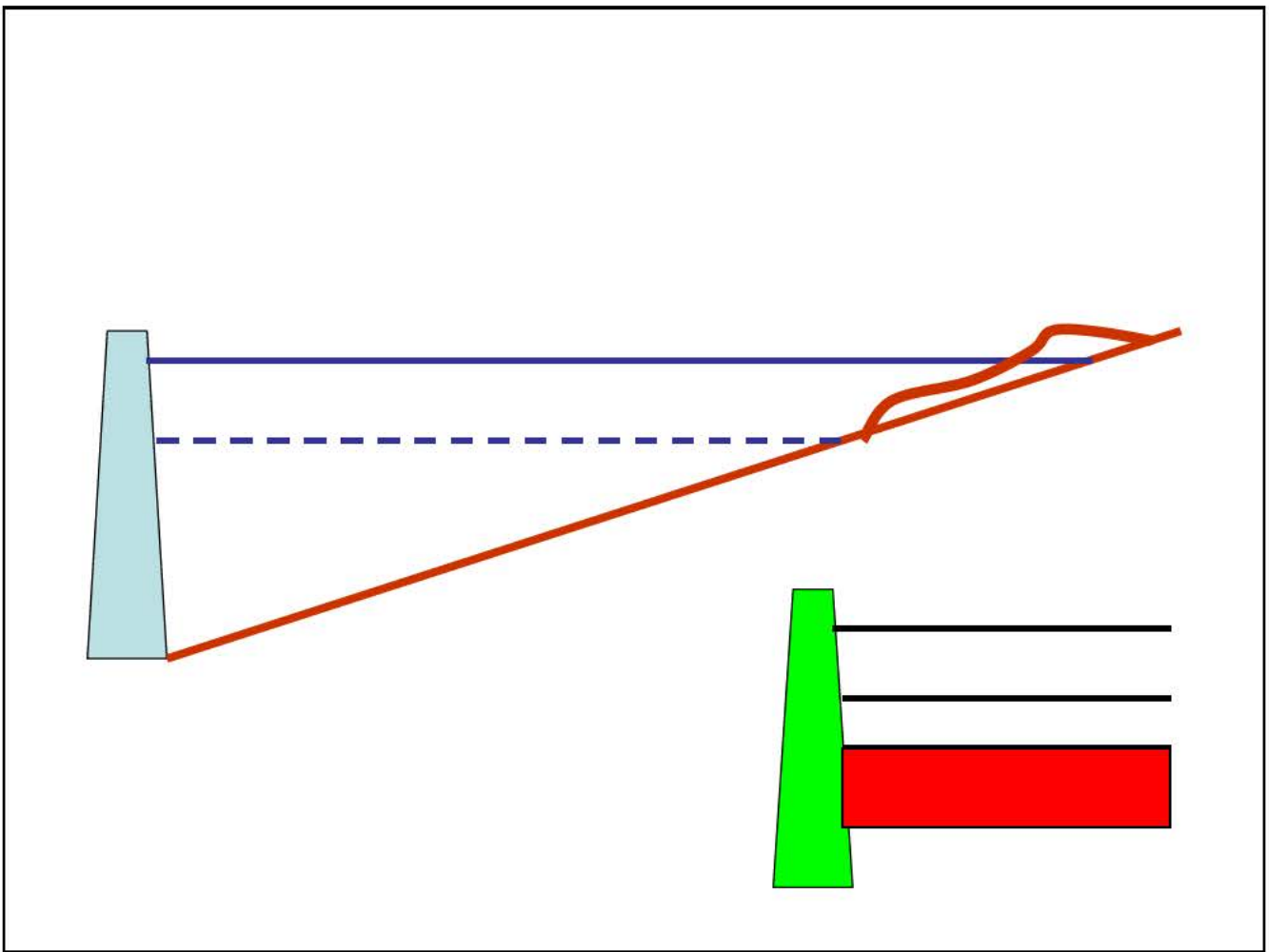
同様

極めて小さく、限定的

# 川上ダム効果

小さいか、どうか？  
小さくても、  
どうしても必要か？





### 3.原案との経済性比較

評価対象期間	原 価 (単位:億円)			現価換算後(単位:億円)		
	原案 (長寿命 化施設)	代替案 (水融通 方式)	差 異	原案 (長寿命 化施設)	代替案 (水融通 方式)	差 異
30年						
50年						
100年間	573	213	360	266	72	194
排砂単位当り コスト (50年間のケース)	円/m <sup>3</sup> 17,900	円/m <sup>3</sup> 6,300	円/m <sup>3</sup> 11,600			

**利水者との調整されず**

## 姉川、高時川 天井川対策緊急

# 丹生ダム原案 先送り？

- ・整備局の説明は、ダムを造らんがための数字のつじつま合わせであり、環境変影響もダム建設を前提にした検討に過ぎない。
- ・委員会は、現時点において、これらのダム建設の「実施」を淀川水系河川整備計画に位置づけることは認められない。